



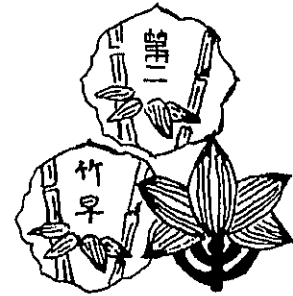
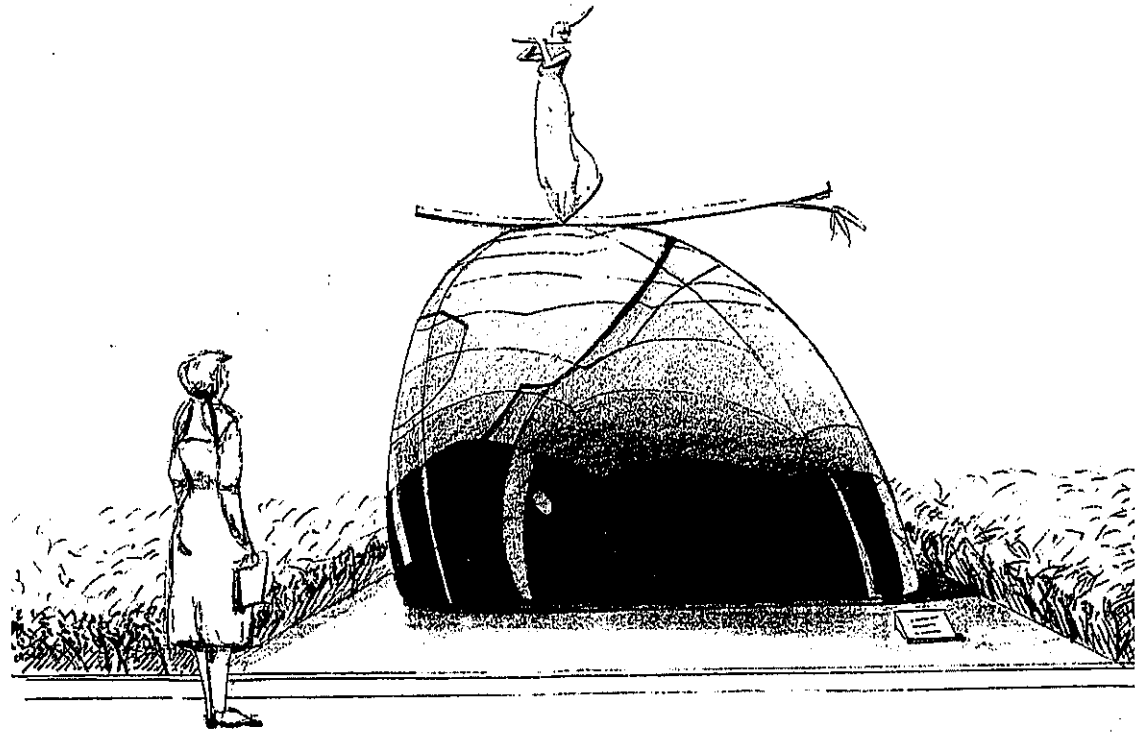
# 会報

2001

No.12

## ●100周年記念報告号

東京府立第二高等女学校同窓会  
東京都立竹早高等学校同窓会



## 篁会報12号

### 目次

会長挨拶	城戸崎 愛	2
学校長挨拶	磯山 進	3
関西篁会・湘南篁会		4
財団法人竹早会		5
創立百周年記念事業を終えて	小山 豊子	6
記念式典を終えて	坂原富美代	7
「モニュメント」の紹介	駒見 宗信・伊藤 麻沙人・小堤 良一	8
ルポルタージュ	堀江 禮子・黒瀬 忠生	10
座談会「竹早百周年と私たち」		13
竹早エコー		18
お知らせページ		31
総会報告	高橋 多助	33
理事会報告	小山紀久彌	34
学校の現況	安田 健	35
先生からの便り	青木茂先生・三柳將明先生	36
記念式典と祝賀会写真ページ		38
編集後記	角掛 隆	41

# 2001年 篁会総会

日時： 平成13年6月10日（日）午前10時30分～  
 場所： スカイ ウィンドウズ  
 （東京オペラシティ54階／☎03-5388-1015）  
 会費： 7000円（学生2000円）

10時 受付開始  
 10時30分～ 総会＝平成12年度事業・会計報告、平成13年度事業  
 計画案・予算案、百周年記念事業実行委員会報告、  
 篁会会報編集委員会報告  
 11時40分～ 講演「隣人たちのイスラームを見つめて：  
 世界に開く文明戦略をデザインする」



[講師] 板垣雄三

1931年、東京本郷生まれ。東大で西洋史を専攻、卒業とともに中東イスラーム研究を開始。1956年から4年間、竹早高校で世界史を教える。その後、東大、東外大、国立民族学博物館、東京経済大などに勤務。現在、日本学術会議会員（第一部長）、東大名誉教授。

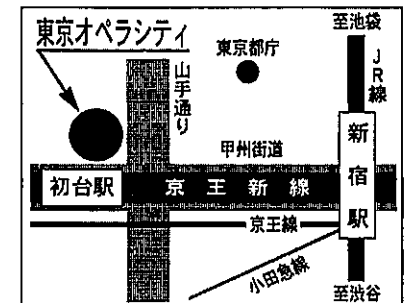
12時40分～ 懇親会（着席によるビュッフェ形式）司会は高校32回生  
 13時20分～ ピアノ演奏（内田健一、鈴木輝人＝高校52回）  
 府立第二高女・竹早高校校歌斉唱  
 14時30分 閉会

**ご出席の方は同封の葉書でお申し込み下さい。5月20日必着。**

今回幹事： 高校11回生（昭和34年卒）・高校32回生（昭和55年卒）・高校52回生（平成12年卒）  
 次回幹事： 高校12回生（昭和35年卒）・高校33回生（昭和56年卒）・高校53回生（平成13年卒）

### 東京オペラシティへのアクセス

会場の「スカイウィンドウズ」は西新宿にそびえる東京オペラシティの54階にあります。地下鉄都営新宿線と相互乗り入れの京王新線「初台駅」の[東口]からエスカレーターを乗り継いで東京オペラシティの2階へ行き、エレベーターで54階へ上がって下さい。





## 新世紀を迎えて

算会会長 城戸崎 愛

皆様 新世紀を如何お過ごしでしょうか。昨年十一月十八日、滞りなく母校創立百周年記念式典、並びに祝賀会を終える事が出来ました。未だ記念誌など最後の追い込みでございますが、皆様の一方ならぬ御協力と御支援のお陰様をもちまして、学校の百年の歴史の瞬間に共に歓びを分かちあえた事、感無量でございます。本当に有難う存じました。

「私の孫も絶対竹早に通わせたいわ。決めました。」

と何年かぶりに朝早くから式典に出席なさった卒業生の方が目を輝かし、稍、興奮気味に語りかけて下さったり、祝賀会終了後会場の出口で「楽しかったわ。何だか涙が出ちゃって…」

と堅く握手して帰られた先輩、後輩の方々。私も思わず泣き笑いをしてしまいました。この一日は皆様もそれぞれにタイムスリップして、青春を謳歌してらしたようにお見受けしましたのは、私の独りよがりだったのでしようか。私にとりましては心とむ一日を過ぎさせて頂きました。

思い起しますと、ここに至る迄に皆様は各々の分野、立場で全力投球して下さいました。殊に学校の先生方は学校のお授業と併行しながら、それは想像を絶する御協力を頂き、殊に記念誌、写真誌の編集と「映像でたどる竹早の百年」のビデオ作成には、只々頭の下がる思いで一杯でございました。現在も未だ続いておりますが、心から感謝申し上げます。

同窓会算会も二十一世紀スタートのこの時期に、母校百年の歴史から得た良き伝統を受け継ぎながらも新しい竹早高校同窓会として新たな第一歩を踏み出し、各年代の節目節目にはスマートにバトンタッチをして頂きたい希っております。

また、私は数年前に、二十一世紀の食生活に不安を感じて「現代病と食

生活」と題してエッセイを書き世の中を憂いておりましたが、今、現実となつてきて愕然としております。その中で最近、当然自然と思われていた事がそうでなくなる。太陽の恵みを十分に受けていない素材から酸素希薄な空気、自然のうま味の失せた水、という環境の中でしか生活出来ない私達都会人。総て科学先行の世の中、殺伐とした沢山の事件が連発して、而もそれを日常茶飯事の様に受け止めている私達の神経は恐ろしい。現代病の根源は、心の病、でストレスによるものが圧倒的に多いのです。ストレス(昔は神経症、神経衰弱と云われた)子供達には自閉症という病名が付き、いじめ、登校拒否に悩まされ、若者達は胃炎、内因性神経症(心身症)と、過保護に育てられ(私達の責任?)挫折に弱く、中年の方達は四方八方ふさがりで、胃炎、糖尿病、高血圧症、躁鬱病、アルコール依存症、円型脱毛症と、老人達はそれらに加えて、心臓病、パーキンソン症候群と、果ては子供から老人まで自分の命を絶つてしまふ人達が増えて、何とも悲しい世紀末になるのでは…と延々と暗いエッセイを記したのでした。結びは、生活も食生活も、原点に、自然に戻りたいと、私達は東洋に住む日本人なのです、と。

この頃のように、暗いニュースばかり耳にしますと、私は年のせいでしょうか悲しくなり不安になり弱気になって溜息ばかりついております。そのような時、たまたま心に安らぎを与えてくれた大人の絵本と出巡りました。感動しました。皆様にも是非御紹介したくて…。

B.L出版発行

作者 ガブリエル バンサン (ブリュッセル生れの女性。二千年九月に永眠。)の卓越した鉛筆デッサンによる絵本。

①「アン ジュール」(ある犬の物語)

②「ナビル」(ある少年の物語)

③「老夫婦」(ジャック プレル のシャンソンを聴きながら絵をかく)

殊に「老夫婦」は、老いを冷静に見つめ、人間の真実を描いている力作。私は本当に心を癒され感動しました。私の独断と偏見で勝手な事を記しました。お許し下さいませ。

## 二十一世紀を迎えて

竹早高等学校校長 磯山 進



算会の皆さまにおかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃は母校の教育活動にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

わけでも昨年は竹早高等学校の創立百周年にあたり、記念式典の実施に際しましては算会の皆様の物心両面にわたるご厚情を賜り、深く感謝申し上げます。第です。

お陰さまで、昨年の十一月十八日、文京シビックホールにおいて記念式典を善く盛会のうちに実施することができ、ご参列戴いた大勢の方々からお褒めの言葉を頂戴致しました。これもひとえに算会をはじめ父母と教師の会の皆さまのご理解とご支援の賜物であり、百周年記念行事実行委員会の職員の方々の熱意のあらわれによるものであります。

また、午後には東京会館で創立百周年記念祝賀会を実施して戴きましたが、百周年記念に相応しい実にも心こもった格調のある祝賀会で、併せてお礼を申し上げます次第であります。

在校生の諸君にも創立百周年という記念すべき年に巡りあつた機嫌を実感し、竹早高等学校の誇るべき伝統を受け継いでいって欲しいと念じております。「たずさえて友と」写真で綴る「竹早の百年」を繕えば、竹早の地で学び、青春を送った諸先輩の様子が彷彿としてくるに違いありません。そして竹早の学窓を出た諸先輩が社会のさまざまに分野で活躍なさっていることは在校生にとって大きな誇りであり、明日への励みとなるに違いありません。

ところで今年(西暦二〇〇一年、二十一世紀を迎えました)が、私たちがとりまく社会環境は大きな変化の流れのなかにあります。

例えば、経済のボーダレス化に伴う国際化の一層の進展、IT革命に象徴される情報通信技術の発達と情報通信ネットワークの急速な発展、生命科学をはじめとする科学技術の著しい発達など顕著な例です。また、少子高齢化社会や環境問題などへの対応など、直面する課題は様々です。

そして、経済の発達に伴う社会の変化は人々の価値観の多様化とともに社会意識の変化や文化の変容を促してきました。

行財政制度や経済・金融制度などの既存のシステムの改革が進められているのも新しい状況に対応してのことであり、教育改革もその一環をなすものと言えます。今日つとに指摘される教育をめぐるさまざまな問題は、経済・社会の変化と社会意識の変容の反映である点が少なくありません。

ところで、平成十四年度からは学校完全週五日制となり、十五年度からは高等学校で新学習指導要領が実施されます。竹早高等学校でも十五年度の入学から適用される新しいカリキュラムの検討をしておりますが、竹早を志望する生徒の殆どが進学希望である実情を踏まえて、大学進学に対応できるカリキュラムを考えております。

また、本年度から学校運営連絡協議会を設置しておりますが、これは開かれた学校作りを目指して、学校の教育活動に関する情報を外部に発信すると同時に教育改善に資する提言を戴くことを目的として設置したものです。その為にPTAや同窓会の代表、小中学校の代表、地域の代表、公共機関の代表の方に委員を委嘱して、教育活動や学校運営についてご提言を戴き、更なる改善を図っていくこととするもので、まさに社会の変化に対応した改革の一端を示すものです。

更に東京都では「心の東京革命」を提唱し、家庭と地域、学校が一体となって児童生徒に豊かな心を培う運動を推進しております。

一方、国では「教育改革国民会議」を設置して、昨年の九月に中間報告を出しましたが、そこでは十七の提言がされております。個々の提言は拙くとしても、人間性豊かな日本人の育成、個性伸長と創造性の育成、新しい時代に対応した学校づくり、といった内容が盛り込まれています。このように教育改革の歩みが急速に進行しているのが二十一世紀を迎えた昨今の状況です。

幸いにも竹早高等学校の生徒たちは素直で礼儀正しく、学習はもとより学校行事や部活動にも積極的に取り組んでおり、それぞれが優れた資質をもっています。

私たちはこうした生徒たちが竹早で充実した三年間を過ごし、二十一世紀を担う有為な人材としての資質を培うことができるよう、鋭意努力して参る所存でございますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

最後に算会の皆さまの益々のご健勝を念じ上げ、ご挨拶と致します。

## 新世紀を迎えて

関西鑑賞会会長 河合 道子 (高校3年生)

百周年記念事業も、出版の大詰めに入り、大盛況の裡に新世紀を歩み出しました。二十一世紀の第一歩はどの様な感慨を以て新年を祝うのかと、少し期待していましたが、極く普通に朝がやって参り、いつもの通りの日常が訪れただけで、当り前の事、が世の中のだと納得致しました。凡そ百年前ほどの様な時代であったのでしょうか。

一八〇〇年代末から一九一〇年代辺りを見ますと、日本では明治時代の欧風化の波が漸く平らになりかけました。そして、大正モダニズムと云われる時代に入っていくのですが、その頃、新しい芸術を目指した青年達が、覇を競ってエネルギーな運動を開始しています。その後の戦争の世紀迄の暫しの平和な時代であり、又、官僚指導強化に抵抗した自由な芸術運動の展開も見られます。ヨーロッパに於ても音楽や美術の分野に同様の動きがありました。その後、続く「二〇〇〇年戦争の世紀」が不思議に思えませんが、或いは鋭敏な芸術家達の感覚が、後に来る不安な世紀を読み取って、一ときの平和を謳歌したのかも知れません。

二〇〇一年の春麗らかな日に、景気沈滞、民官政の不祥事件、子供の死、などの暗いニュースを読み聴きますと、逆にここを通過して新しい良い時代が到来するかも知れないと、秘かに期待を膨らませています。

さて、昨年の関西鑑賞会は、芦屋市のH・竹園で催され、城戸崎愛会長、小山豊子副会長、松本紀子湘南鑑賞会会長他、各地より多数のご出席を仰ぎ、和やかに御開きとなりました。厚く御礼を申し上げます。

本年は、場所を京都に移し、九月九日重陽の節句に総会を催す事となりました。京都駅東隣のセンチュリーホテルを会場に致しますので、交通の便も良く、白秋の譬え通り、明るい季節には是非京都見物兼ねて頂き、御出席賜ります様、一同心よりお待ちしております。

### 関西鑑賞会開催のお知らせ

日時 平成十三年九月九日午前十一時三十分開会 午後三時閉会  
場所 京都センチュリーホテル 京都市南区塩小路

(R)京都駅北側東隣 烏丸中央口を出て右へ一分

## 二十一世紀の幕開け

湘南鑑賞会会長 松本 紀子 (高女41年生)

鎌倉駅前広場の百本のキャンドルライトの点灯、天駆ける馬の氷の彫刻の前で一七〇人によるベートーベンの「歓喜の歌」の大合唱、「和太鼓」の勇壮な音が若宮大路に鳴り響き、古都鎌倉の新しい世紀の扉が開きました。NHKの大河ドラマ「源義経」「新・平家物語」「草燃ゆる」「太平記」に続く五作目「北条時宗」が新年からスタート、私達は八百余年の古い文化が静かに眠っているこの鎌倉で、歴史の中に身を委ねたり、四季折々の風情を楽しみながら、今に残る小道を辿って社寺を訪ねる現実に立ち返ったりして過ごしております。

平成十二年湘南鑑賞会は五月三十日、真夏の様な太陽にキラキラと輝く七里が浜を見渡す鎌倉プリンスホテルで行われました。城戸崎会長、河合関西鑑賞会会長を始め、東京からかけつけて下さった皆様方と、全員五〇名という盛会でした。在学中スポーツに励まれ「それが今日の健康のもと」とおっしゃる米寿を迎えられた四名の方のお元気なお姿に全会員のお手本として心からの拍手を送りました。皆様の共通の話題は竹早百周年記念事業の件に集中、この熱い思いが昨年の式典祝賀会の大成功につながったこと、誠に感慨無量の思いが致します。写真撮影のあと、スポーツ吹矢の普及に盡力されている高橋健氏(高校10年生)の胸式腹式特有の呼吸法により全身の細胞を活性化し、自律神経の働きをよくし、ストレス解消、老化防止、美容などすべての健康に効果のあるお話しとデモストレッチ、又有志の方の実演と楽しいひとときを過ごしました。過日(二月七日)「あっぱれ!日本」というテレビ番組に出演され、その見事な実力に改めて認識を深く致しました。

### 湘南鑑賞会ご案内

とき 平成十三年五月三十日(水) 午前十一時三十分(受付十一時)  
ところ 鎌倉プリンスホテル 〇四六七一三二一 〇四六七一三二一

連絡先 高橋健幹事まで 〇四六六一八二一 〇四六六一八二一  
宿泊につき特別割引料金を設定しましたので、ご希望の方は四月末日までにスケジュールの詳細をホテルと直接交渉して下さい。  
お誘い合わせの上お越しをお待ちしています。

100周年を期して、21世紀にむけてイメージチェンジ

# 八ヶ岳寮 → 竹早山荘

在校生と100周年式典に御出席の皆様にお願した名称についてのアンケートは、役員会で高校13回ご卒業の遠藤さき様の竹早山荘に決定しました。名称を考えて下さった方々ありがとうございました。

### 皆様の竹早山荘です。

是非一度ご自分の目でどんな所か確かめにいらしてください。

四十年前の建物の外壁はレンガ色に吹き付けられ、テラスが新しく、草原が森に変わっていますが、中に入れば、懐かしい部屋のたたずまいに、ほっとなさることでしょう。

今時、緑の風の通り抜ける開放的な室内が珍しく、鍵のかからない襖の部屋、大壺に生けられた花、不安定に置かれた焼き物のオブジェ、…集う人々の気持ちがいつの間にかやさしくなる不思議な空間。いつまでもそうであって欲しいと願っています。

賛助会員募集中(年会費3,000円)宿泊費を10%会員割引でご利用いただけます。

■竹早山荘は、自由にご利用になれるレンタル・スペースです。

竹早山荘と森の空間はどなたでも、ご自分のアイデアプランで自由にご利用頂けます。

同窓会、サークル活動、ホームパーティ、音楽、絵画、陶芸、スポーツ等の宿泊研修に最適です。

次代を担う子供たちの自然体験の場所としても是非ご活用ください。

今年からキャンプサイトを整備いたします。



《お問い合わせ、お申込み》 (財)竹早会事務局  
TEL 03-3943-2415 FAX 03-3941-5872  
e-mail takehayakai@dream.com  
〒112-0011 東京都文京区千石2-34-1-101

— 祝賀会そしてこれから —

算会副会長 小山 豊子(高校4回生)

雨模様肌寒かった前日に比べ、朝からの穏やかな日差しに安堵した、十二年十一月十八日(土曜日)でした。

竹早高校創立百周年記念行事は、午前中の文京シビックホールでの若人を中心とした式典に感動し、午後の祝賀会は、格調高く華やかな素晴らしい会だったと、会の終了直後から、そしてその後何日にも亘っていたいただいた数々のお誉めのお言葉に、祝賀会担当総務として、又、裏でそれぞれの役割を果たしていた役員一同、皆様の御協力に感謝するばかりでございます。

平成十年七月、創立百周年記念行事実行委員会が、学校、父母と教師の会、そして算会の代表により発足し、第一回の会合を持ちましてから、校長先生も第二十一代筒井利行先生、第二十二代中込勝英先生、そして現二十三代磯山進先生と、三代に亘って関わりを持たれました。これを支える先生方も、安田健教頭先生を始めとして、発足時にお力添え下さった天野恵司先生、その後を引き継ぎになった三輪主彦先生、算会会員でもあり学校と算会両者のお立場で全てに関わられた、坂原富美代先生、細田裕美先生、俵田浩一先生(現都立赤羽商高)、式典での素晴らしい映像を作られた中原道高先生、細田盛夫先生は膨大な資料と取り組んで、当日の参加者に差し上げた写真集「たずさえて友と」を編集されました。式典のプログラム作り進行を御担当の永田正彦先生、コンピュータを駆使して、全ての名簿を見事に整理された大塚宇先生、その他にも陰でお力添え下さった先生方、渡辺事務局長さん以下事務局の方々に御礼申し上げます。

算会が祝賀会を主催するに当たりまして、まずは会場選びから始まりまして、着席式ビュッフェスタイルで約五百名と推定し、予想した人数は正に的中、当日は五百十名の御出席で、これ以上はお断りしたいと云う程の盛会となったのです。会場の東京会館は皇居二重橋の真向い、見下した松の緑が晴天に美しく映えていました。

司会はNHKアナウンサー古屋和雄氏。歴代校長先生の御挨拶の間を縫ってお祝いに駆けつけて下さった鳩山邦夫氏は、竹早高校が学芸大学の校舎と分離する時期の文部大臣として、新校舎建設に御尽力いただき、又、

母上鳩山安子様(高女40回)が御欠席との事で、城戸崎会長より御出席をお願いしたのです。お料理もお好きな事は知られていらつしやいます。議員にならなければ料理人だったかもしれないとお話に会場も沸きました。

続く舞囃子、観世流能楽師で女流第一人者山階敬子様(高女43回)の凛とした「高砂」の品格。祝宴に入り、お料理のお味には皆様ご満足いただいた様です。祝宴の締めくくりは、無形文化財の江戸里神楽「寿獅子」、まことに祝宴にふさわしい華がありました。有志のコーラスを交えての校歌斉唱に、ピアノ伴奏は内田健一君(高校52回)、閉会の辞は同じく若い世代の山崎節子さん(高校51回)。

この様な盛り上がり、多彩なプログラムを、名司会者古屋和雄氏は、開会から閉会まで時間通りにピタリと納められたのには、お見事と申し上げる他はございません。後日、この日の様子をお聞きになり、欠席したのが残念だったと云って下さる多くの算会員の皆様には、百周年は二度とありませんが、これを機に算会の今後の在り方に関心をお持ちいただき、毎年の総会に御出席下さる事をおすすめいたします。会員が六十才になった学年を中心に三学年が幹事学年となり、会場、イベント内容をそれぞれの責任で選び、充実した楽しい総会を演出しているのです。二十一世紀の算会総会にも多くの御意見を寄せいただき、新しい感性で活動をして行きたいと切望しております。

今後の百周年記念行事といたしましては、記念式典、祝賀会の記事も盛り込んだ記念誌が、夏までに発行されます。記念碑の建立が遅れました事は、理事会としてお詫び申し上げます。十一月に卒業生を作者にとの決定はしておりますが、担当者を通して提出されました金額が予算を大きく上回る金額であった為、その調整に手間取っておりますのが最大の原因です。他にも資料室設置、記念文庫等を学校側と御相談し上げながら、皆様から御協力いただいた募金と、算会館基金の御援助を大切に使用させていただきます。

終りになりましたが、募金から始まりましたこの百周年記念行事に對しまして、湘南算会会長松本紀子様、関西算会会長河合美智子様はじめ会員の皆様の日頃の御支援がどんなに心強かつた事か、ここに改めて御礼申し上げます。

百周年記念式典を終えて

坂原 富美代(高校17回生)

百周年記念式典は皆様のご支援のおかげで成功裏に幕を閉じることができました。深く感謝致します。

この間の実行委員会の動き、今後の予定などを織り交ぜてご報告致します。

『映像でたどる竹早の百年』

百周年実行委員の教員は、同窓会の援助を得ながら足かけ四年にわたって竹早百年の歴史を発掘して来ました。そこには二十世紀という時代がみごとにうつし出されていて、実に興味深いものでした。式典の主役、卒業生と在校生にも、当日その面白さを味わってもらい、式典会場を共通体験で結ばれた特別な空間にしたい！その思いを実現したのがこのビデオ作品でした。素材は九十冊にも及ぶ卒業アルバム写真。これを最新のコンピュータ技術を駆使して静止映像をビデオ画面上で動くようにして作りました。美術の中原先生の力作です。授業が終ってから連日夜十時すぎまで美術室の灯が消えることはありませんでした。式典の六日前に司会の内多さんがL教室でナレーションを入れてくださった瞬間、映像が生き生きと生命を吹き込まれたように輝きました。この映像は大好評で下記の通り実費でビデオをおゆすりすることにしました。

『たずさえて友と』写真で綴る竹早の百年

百周年事業の大きな意義は、竹早百年の歴史が初めて本格的に編纂されることです。今夏発

刊予定の記念誌本冊に先だつて百年の歴史を様々な切り口で見直したのがこの写真集です。

編集委員にとつても百周年記念誌の編集に向けてのウォーミングアップとなりました。『映像でたどる竹早の百年』の基礎にもなったもので、沢山の写真の中に自分達の在学中の姿を発見して感慨深くご覧になった方も多いのではないのでしょうか。式典で映像を見、家で改めて写真集を読むことで更に竹早の百年を実感していただくこと、編集委員が心をこめて作りしました。

緒形華さんの登場

・ 記念講演・校旗引継・校歌合唱

映像のあとに、予期せぬ緒形華さんの飛び入りで会場は興奮の渦にまき込まれました。印象的なメッセージをいただき、在校生にとつても最高のプレゼントになりました。

記念講演の講師には卒業生で日本近代文学の新たな潮流の旗手として注目される小森陽一さんを迎え、二十世紀と漱石を語ってもらいながら、竹早の歴史とも関連づけていただきました。映像で、写真集で、そして講演でと二十世紀を生きた竹早高校を振り返ろうと目論んだのです。更に新たな二十一世紀への一歩につながってほしいという願いを込めて、算会館記念基金で新調なった校旗を、新制高校になって初めての男子生徒会長本田さんから現生徒会長へ引き継いでもらいました。引継ぎに当り城戸崎会長から校旗の由来が明らかにされ、更に高女卒業生のコーラスで旧校歌が紹介されました。清らかに澄んだ歌声には心を洗われ、しみじみ式典の感動がこみ上げました。最後に全員で現校歌

を合唱することで式の幕が閉じられたのです。

式典を貫いていたのは竹早にゆかりの人々の心にある個性的な会を手作りで作り上げよう」という精神でした。司会の内多さんや滝沢さんを始め、多くの卒業生の参加で予想以上に素敵な式典が実現しました。実行委員としては皆様の晴々とした表情が最高の喜びでした。

『百周年記念誌 竹早の百年』

記念誌本冊は今年の夏刊行予定です。写真でたどった百年の歴史を資料で裏付けていきます。同窓会の沿革や同窓生の活躍を追う頁、百年の歴史を卒業生のメッセージで綴る頁なども充実しています。百周年記念式典の記録も掲載します。写真集の編集スタッフが頑張っ

ていますので、ご期待下さい。

「たずさえて友と」(写真集) 二、〇〇〇円(送料込み) 『映像でたどる竹早の百年』(ビデオ30分) 一、〇〇〇円(送料込み)

ご希望の方は希望のものを明記の上、現金書留で左記宛お申し込み下さい。

(発送は月一回にまとめますので届くのが遅くなりますがご了承下さい)

宛先：竹早高校内算会

〒112-0002 東京都文京区小石川四一―一 〇三(三)八二(六)九六一

尚、記念誌本冊は発刊し次第、募金協力者に郵送致します。

# 「モニュメント」の意図と表現

駒見 宗信 (建築評論家・高校9回生)

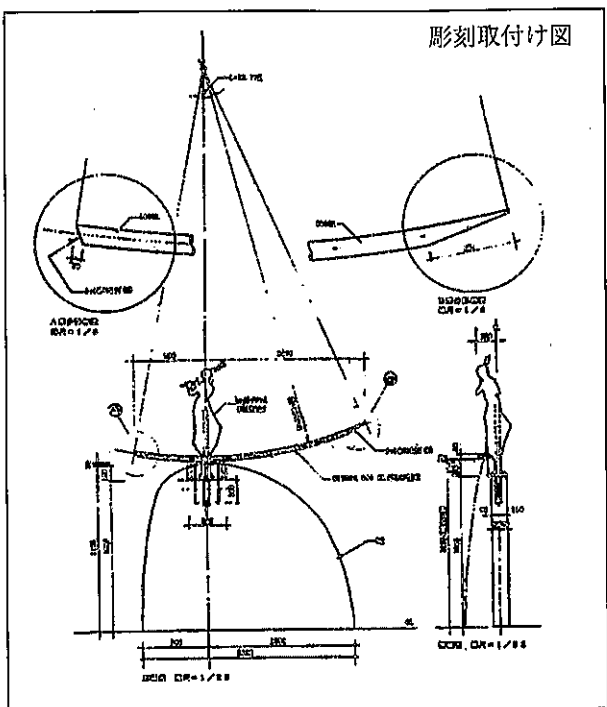
百周年記念事業の一環として、同窓会(篤念)の総意でつくられるモニュメントは、多くの卒業生から寄せられた寄付金によってまかなわれる。モニュメントの実施制作者は、本校の卒業生である陶芸家と彫刻家の二人の造形作家によるものである。陶芸と彫刻といったジャンルの異なる作家の共同制作は、わが国でも稀なケースであり、その成果が注目される。

このモニュメントには、同窓生が母校へ贈る単なる寄贈物といった意味合いだけでなく、卒業生ひとりひとりの母校に寄せた熱き「想い」が込められている。大仰にいえば、自分たちの竹早での高校生活の「証し」として、さらには、後輩たちに託す「夢」を、このモニュメントに仮託しているともいえる。

制作者とともに、どのようなものであるべきかといった検討に、多くの時間を費やしたが、結論として学校という教育の場に相応しいもの、卒業生の「想い」が在校生に直截に伝わるもの、感性豊かな芸術の世界に誘うことができるもの、いつまでも人々の記憶に残るもの、さらにはそこに象徴性と物語性が具備されているもの、といった多くの要素を織り込もうと考えた。われわれはこのような観点に立つて、具体的な表現方法を以下のように導き出した。

モニュメントは、二つのパートから構成されている。一つは、ヒマラヤ杉付近に設置される色鮮やかな陶壁である。その頂部にはフルートを吹くブロンズの少女の立像が据えられ、足元からはその少女を支えるようにして、校名の「竹」をイメージした湾曲した棒状のステンレスが左右に大きく伸び、竹早の未来を表現している。

もう一つは、通学路を挟んだ反対側の植込みの中に、コンクリートの円筒形の台座の上で、読書をしながらフルートの音に聞き入る少年の坐像。この少年像には、教育の場としての竹早の過去と現在を象徴させている。これらの二つのモニュメントが同じ空間を共有して融合するとき、新たな芸術空間が創成され、ここに秘めた歴史性と一つの物語性が完結する。



## 「モニュメント」のデザイン

小堤 良一 (彫刻家・高校24回生)

このモニュメントの特徴の一つは、同じ芸術分野であるが、陶芸と彫刻といったジャンルの異なる二人の造形作家が、共同して一つの作品をつくることにあるといえます。

したがって、いずれか一方のモニュメントが欠けても、ここに設定したコンセプトは成立しない。また、一つの物語が終わることもない。

モニュメントは諸般の事情で百周年記念式典までに完成させることができなかった。しかし、完成に向けてその作業は今も続けられている。遅くとも、今秋初めまでには完成する予定である。新卒業生の諸君には、在学中にお見せすることができず、かえすがえすも残念である。

完成後には一人でも多くの卒業生が竹早を訪れ、芸術性の香り高いモニュメントを鑑賞していただければ、制作に関わった者の一人として、これに勝るものはない。

## 「モニュメント」制作への思い

伊藤 麻沙人 (陶芸家・高校20回生)

私たち二人は、共同制作の依頼を受けてから、竹早高校のモニュメントはどのようなものが相応しいのか、それぞれの立場から率直な考えを話し合いました。その結果、「夢の風」と仮の題をつけて、作品のイメージを二人の間で統一しました。

校門付近から校舎の内外、街の雰囲気や生徒たちの様子などを観察し検討する中で、いくつものモニュメントデザインが完成しました。「清々しくさわやかである」「安全性が高く頑丈である」この二つを主に考えて、ここに示したデザインが決定しました。

中心のモニュメントは、ブロンズ・ステンレス・陶胎を組み合わせてつくることになります。山型の陶胎部分は、下方から濃紺・青緑・水色から白色へと、海面までをイメージし、風のゆらぎや潮のさざ波を表現しています。その上の輝く空間には「夢の風」が吹き、弓なりのステンレスの造形とともに、フルートを吹く少女の立つ姿があります。

生徒諸君が毎日の登下校時に目に触れるものになるモニュメントであるため、さわやかで誰にでも愛される品格のあるものでありたいと、願っています。

このような二人の作家の組み合わせは、かつて例を見ないので、プロデューサー役の駒見氏を含めて、三者が気心の知れた竹早の同窓生であることが、このプロジェクトを実現に導いてくれたものと考えています。

陶芸と彫刻は制作の発想が異なります。ましてや、その技法や使う素材も異なります。したがって、一つの作品に仕上げるには、表現上も成功と失敗が隣り合せのスリリングな仕事だといえます。もちろん、私達は成功を目指してプランニングの段階で、多くの時間を費やしました。

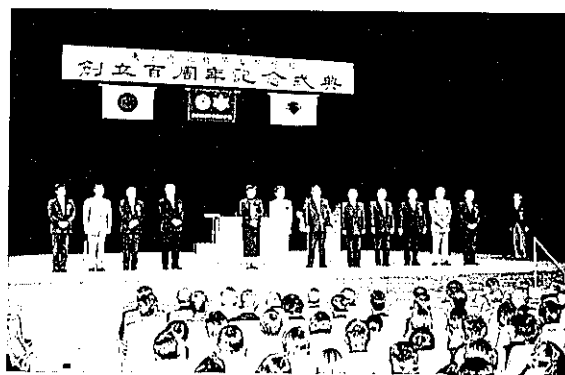
その結果、集約されたプランが別掲のバースです。デザイン上考慮した点は以下の通りです。

- (1) 校内前庭全体を夢があり、親しみのある空間にするために複数のモニュメントを点在させ、ストーリー性のある構成にする。
  - (2) 校舎・樹木・植栽(植え込み)などの環境と調和するスケールと、空間構成にする。
  - (3) 陶壁と彫刻のポリウム感が調和し一体化すること。
  - (4) ただ単に、陶壁(台座としての)の上に彫刻が据えられているという陳腐な表現は避ける。
  - (5) 陶壁の表現面積を十分に確保する。(小さくても陶壁の意味をなさない)
  - (6) ブロンズの彫刻と、陶胎の質感と色調が違和感なく表現されていること。
  - (7) 彫刻部と陶壁部が、構造的にも安全性が確保されていること。
- 右記の条件を満たすべく、陶壁部(伊藤氏制作)では、フォルムを不定型の山型とし、構造面の安定性を保たせるとともに、頂部の彫刻の浮揚感を際立たせています。さらに、色彩と絵画的表現の舞台としての役割を、この陶壁部に持たせています。

また彫刻部(小堤制作)では、陶壁と彫刻の間に挟んだ枝状のステンレスパイプが、陶胎とブロンズの材質の違いによる違和感を解消し、全体の造型にシャープなアクセントを与え、空間的広がり的重要な要素を担っています。

このような制作の意図が生かされるか否かは、実施制作にあたる私たち二人の腕前が試されていると、いえるかもしれません。

### -知性あふれる記念式典-



堀江禮子(高校11回生)

一九〇〇年五月一日、小石川町の光圓寺の一角からスタートした府立第一高等女学校、そして都立竹早高等学校の百年目の記念式典が、二〇〇〇年十一月十八日、文京区のシビックホールで行われた。当日は快晴。

紋付・袴 東髪姿の女学生の末裔達は百年後の今、おもしろい学生服、ミニスカートにルーズソックス、茶髪姿も混じって、でも颯爽と九時過ぎには次々とホールに到着。往年、セーラーの制服にチョッピー誇りを持って通学した五、六十代の先輩OG達が「制服って無いのかしら?」とヒソ

ヒソ声で一瞥。(いいえ、彼等は学園紛争以後、学舎で着る服を自分で決められる自主性にこそ誇りを持っているんですよ。)

式の開始前、会場では吹奏楽部の演奏で校歌の練習。在校生達は大きな声で歌い出した。今時の高校生が校歌を高らかに誇らしく歌っている。しかも生徒達だけで、胸が熱くなりました。

出席者は七百二十名の在校生と教職員以外に、約六百名の来賓・卒業生。卒業生は、一九二八年卒の九十歳の方から二〇〇〇年卒の十八歳まで、ほぼ各学年全て。それだけで歴史です。

会場の各座席前に置かれていた紙袋の中に、A4判152頁からなる「たずさえて友と」写真で綴る竹早の百年の分厚い冊子。綿密な調査と資料収集による百年の歩みの記録です。それは一女学校・高校の変遷のみならず、まさに二十世紀日本の歩みを背後に浮き彫りにするような労作で、食い入る様に見ながら、読みながら、製作下された編集委員の先生方の御努力にまず頭を下げました。(これとは別に「竹早の百年」B5判450頁が今夏刊行予定)

九時五十分開式。司会は34回生(一九八二年卒)の弁舌爽やかな内多勝康さん(優しい笑顔のNHKアナウンサー。御存知

ですよ)と51回生(一九九九年卒)の若々しい滝沢知子さん(大学生のコンビ)。

挨拶は学校長と教員長、来賓祝辞は都議会文教委員長と東京都公立高校協会会長のお二人のみ。



最初のイベントは、これ又先生方の労作である編集ビデオ「映像でたどる竹早の百年」の上映(全て自作)。古い写真等も巧みに駆使しながら30分にまとめたその映像は、まるで百年の旅をしてきたような臨場感溢れるものでした。一学年50人前後だった明治・大正期と百人前後になる昭和期の高女時代(エリートでした)。そして「新制高校とは何か」を創造しながらスタートした戦後の竹早高校。貧しかった二十年代、大学級になる三十年代、高校進学が当たり前になってきた四十年代におこる学校選抜制度と学園紛争の嵐、整理と再建の五十年代、新校舎建築や国際理解教育の受け入れ等新たな平成時代。一人一人は僅か五年・三年の「コマ」しか紡げなくても、そこには聡明な若者達が精一杯時代と向きあった百年の青春があったのだと実感しました。続くメインイベントが小森陽一氏(東大教授・近代文学)の「思い起こす勇氣」の演題による記念講演。氏は24回生(一九七二年卒)で、在学中は折しも学園紛争期、この間生徒会副会長と会長を務め、「生徒権宣言」の起草にも携わった方。現在幅広い分野で論陣を張っておられるのは御承知の通り。

「国家予算の数倍という賠償金を下関条約(一八九五年)で他国から獲得した日本は、その資金で工業化を開始、余った金が教育費に廻され、第二高女が創立された一九〇〇年こそが、女子教育の



小森陽一氏

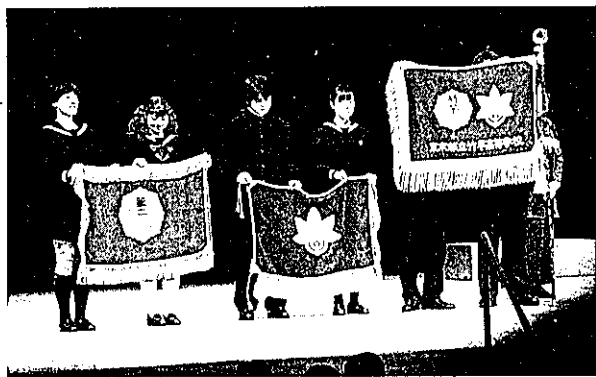
開始年であった」と講演は始まった。女子教育の原点を、漢籍にある「賢妻良母」ではなく、日本人造語による「良妻賢母」の育成にこだわったこと、御専門のひ

とつでもある事から、夏目漱石の「坊ちゃん」(庶美人草)「三四郎」等からも題材をとり、台頭してくる国家主義との対峙、新しい女性像の模索、正岡子規への手紙で「日本人の目はより大ならざるべからず」と帝國主義時代へ警鐘を鳴らす漱石。二十世紀前半世紀の分析を通して、「過去の出来事は現在の問題であり、忘却する事なく皆の問題として背負ってゆき未来へのかけ橋とすべき」と結びました。平易な言葉(在校生にも理解出来たと思う)によるその指摘を、「映像でたどる竹早の百年」と重ね合わせる時、この百周年記念式典がずっしりと重いものとなり、小森氏に惜しみない拍手をおくりました。

そこへ飛び込んだビッグニュース!! 緒形拳氏(9回生、一九五七年卒)が突然来場!! (多分、初めて?) 忘れもしません、一九五六年秋の文化祭での演劇「王将」の坂田三吉役の名演技。学芸会しか知らなかった一年生(11回生)の身としては、目が点になり、まばたきさえ惜しましたよ。氏はユーモアたっぷり、高校時代のお話をしたものだから、在校生達も拍手をして大喜び。緒形さん、ありがとう。

その後、竹早高校歴代の生徒会長が登壇し、思い出を語りながら、新しい校旗が同窓会会長

城戸崎愛氏を中心に初代生徒会長の手から現生徒会長能村君に渡され、第二高女と竹早高校の校歌を高らかに全員で歌って、終了しました。先生方の長期に亘る御準備と御努力、各方面の御協力、秀れた卒業生達、そして内多さんの明るい司会等のお陰で、十五歳から九十歳までを温かく包み込んでくれた、知性溢れる二時間半の記念式典でした。やっぱ「竹早」を誇らしく思いました。(お腹も空きました。会場を出たミニスカートの生徒達が、屈託なく美味しそうに祝いの紅白饅頭を頬張りながら帰っていったのが印象的でした。)



### -創立百周年記念祝賀会-



黒瀬 忠生(高校11回生)

平成十二年十一月十八日(木)午後一時半より、東京会館9階ロズルームにおいて、五〇九名の参加者を得て、東京府立第二高等女学校・東京都立竹早高等学校の創立百周年記念祝賀会が開催された。

会場に入ると、五十五個の丸テーブルが会場いっぱい立錐の余地もないという感じに並べられており、圧倒された。入口にお赤飯を渡す所が設けられ、高校五十二回生から赤飯を受け取り、ウエルカムドリンクをもらい、各自の席に着

き、歓談に花を咲かせて開会を待つていた。座席は、できるかぎり同期の者が集まるように設定し、出席の少ない期の者は、前後の期の者同士がテーブルを囲むように配慮した。

前方に目をやると、舞台の上方に祝府立第二高女・都立竹早高校創立百周年同窓会主催の横看板、舞台上に金屏風、左手に装花、右手に氷細工と祝賀会を盛り上げる雰囲気漂っている。

司会のNHKアナウンサー古屋和雄氏の自己紹介に続いて、城戸崎愛蓮会長長の「祝賀会への参加のお礼、式典の報告、伝統を支えてきた先輩諸氏への、またその諸氏の成長を見守ってきた教職員の方々への感謝、そして後輩の二十一世紀での活躍の祈念の辞、ご列席の方々とともに、百周年を喜びたい」との開会のあいさつにより、会が始まった。

磯山進校長の「同窓会に対する、記念誌発行に因する支援のお礼、祝賀会開催への感謝」とのあいさつがあり、続いて、記念碑建立の目録が城戸崎会長から贈呈された。校門を入り左手のヒマラヤ杉の手前に笛を吹く少女のミニチュメントを建立する予定である。

次第では、舞囃子の予定であったが、鳩山邦夫氏が、ご母堂の代理として出席され、あいさつをいただいた。ご母堂は、高女40回生である。次の会があるとのこと、あいさつだけで退席されたが、ユーモアのあるなかなか迫力のある話ぶりであった。



いよいよ観世流能楽師山階敬子氏による舞囃子「高砂」の舞が始まった。「高砂や この浦船に帆をあげて・・・」と、あの有名な謡で始まった。装束をつけず紋服、袴の姿で舞うのが「舞囃子」だそうである。格調高く身が引き締まる思いであった。山階敬子氏は、高女43回生である。

続いて、来賓あいさつである。初めの第15代木村勇三校長は、出席の歴代校長のなかで一番古い方である。祝賀の思いを2首の詩に託し、朗詠されたが、その解説のなかで、舞囃子の由来を話された。竹早の校地は、皇太后の倫理の教授であった方の塾の跡地であり、皇室とかわりか深いということで、皇に竹を冠して篋としたということである。

次は、第21代筒井利行校長である。平成8年校舎全面改修が完成し、平成9年百周年記念事業実行委員会を設立された校長である。記念事業の基本を百年の歴史の跡をたどろうということにしたということ、さらには、竹早で出会ったすばらしい人々との交わりをこれからも大切にしていきたいと話された。

乾杯の発声は、第22代中込勝英校長で、一万八千余の同窓生とその関係者、記念事業を成功させた実行委員会と関係者への敬意と感謝、二十

一世紀へのさらなる発展を祈念して杯を上げられた。

約一時間の歓談の後、江戸里神楽「舞獅子」が披露された。四世家元若山胤雄社中によるもので、獅子舞に始まり、大黒天の舞、オカメとワライの両面をつけた踊りと続き、獅子と両面の絡みなどなかなか趣のあるものであった。江戸里神楽は、能・狂言・歌舞伎の要素を取り入れた、庶民的なストーリーのある無言劇だそうである。



あつと言う間の2時間であった。最後に、東京府立第二高等女学校の校歌を高女卒の方々が壇上で、続いて、東京都立竹早高等学校の校歌を、高女52回生内田健一君の伴奏で歌い、高女51回生山崎節子さんの「わたしたち若い者が先輩の指導を受けながらこの会を受け継いでいきたい」という閉会のことばでお開きとなった。

# 竹早百周年と私たち

現在竹早に学ぶ在校生の皆さん、若い卒業生の皆さんは百周年という大きな節目の時をどう迎えたか。式典・祝賀会に関わった方々にお集まりいただき、お話を伺いました。学校の百周年記念事業委員会から永田正博先生、坂原雷美代先生にも加わっていただきました。

- 出席者 能村理一(2年生)  
 稲葉みゆき・山本雄亮(1年生)  
 中嶋康雄(高校50回生)  
 滝沢知子・山崎節子(高校51回生)  
 内田健一・田島早苗(高校52回生)  
 司会者 小山紀久彌(篋会副会長・高校6回生)  
 本橋淳子(編集委員・高校11回生)  
 (敬称略 順不同)



## 一〇〇周年の印象

司会 お集りの卒業生の皆さんは、式典の司会をやっていた流沢さん、祝賀会閉会の辞の山崎さん、ピアノを弾いてもらった内田君、会場でいろいろ手伝ってくれた田島さん、中嶋君と、これまで百周年に関わってきた下さった方々ですね。現役では生徒会のメンバーですが、まず生徒会長の能村君、百周年というのは生徒の皆さんの中で、どんな印象で受け止められていたんだろう？

能村 僕は会長として話をする立場だったから、百周年に生徒会長としていられてよかったと思いますよ。稲葉 そうですね。私もよかったです。稲葉さんはあの素晴らしい式典の演壇で校旗を持って立っていた時、どう感じましたか？

稲葉 伝統を受け継いで行かなければと思いましたが、受け継いでいってもらうということは、百年という年の重さ、日にちの重さということがあると思うんだけど、卒業生の皆さんはどうですか？

中嶋 私としてはこのことに関心がなかったんですけど、正直言っても百周年の仕事をして知ったことがあまりにも大きすぎて、竹早って実はこんな感じがあつたんだなということが分かり、百周年に関わってよかったなと思えるようになった感じがします。百周年というのは度々あることではないので、映像を見て先輩が喜ばれているのを拝見して、私もうれしかったですし、この仕事をして今まで関わりがなかった後輩達と話が出るようになった...

司会 竹早百周年というのは、在校中はあまり印象がなかったですか？  
 田島 百年を迎えるということは在校中から常に先生方から聞いていました。でも卒業して、この仕事を始めてから、やっと分かってきたかなと...  
 滝沢 私も在校中は長い歴史があるんだなあ、というぐらいにしか思っていなかったんですけど、卒業した後で百周年の仕事をさせていただいて、歴史資料など見せていただいて、いろんなことが分かってきました。在校中は意識がなくて、卒業してから一つ一つ知った、という感じですね。  
 坂原先生 この人たちは式典当日にいろいろ手伝ってくれましたが、それ以前から、二年も三年もずっと資料整理などやっていたので、それなりに勉強して来たわけです。  
 司会 そうですね。だから他の人たちと比べれば、百周年の催しについて関心の高さが違っていたんですね。現実にはその日が来て、百周年という行事はどうだったんですか。まず司会をやった流沢さんから...  
 滝沢 最初、司会とかそんなすこいことまでさせていただけるとは思っていなくて...  
 坂原先生 初めは生徒に司会をやってもらうつもりだったんですけど、でもまあいう大きな場ではやはりプロでなければ無理だろうということで、卒業生の内多アナウンサーにお願いすることになって。当初は内多さん一人だったんですが、やはり和やかな雰囲気、皆さんに楽しんでもらうには「掛け合いをやったら面白いよな」ということになり、ほんとに飄々から駒なんですよ、「知ちゃんやらない？」、「やる？ ほんと！」じゃ内多さんに聞いてみよう」ということになり、彼が「あ、いいですよ、そういうの」と言ってくれたので実現した...  
 滝沢 私はほとんど何にも出来なくて、全部内多さんがリードして下さったんで...  
 司会 もちろん内多さんの好リードもあつたでしょう



けど滝沢さんも立派だった。  
永田先生 実私の妻は竹早の卒業生で、友達と式典に参加したんですが「素晴らしい。特に映像と司会が良かった。あの滝沢さんという人は本当にアマチュアなの？」と聞かれました。(笑)すごく印象よく受け止めてくれたようです。



能村 言葉とか僕は前々から決めていたのに、内多さんなんてほとんど打ち合わせもなしにやっているのがすごいなと思って... 僕も本番の前にちゃんとやろうと思ったんですけど。当日の朝に、体育の先生に「今日はお前、びしっと締めろよ」といわれた。「分かりました」って。まじめな文章でやるつもりだったんですが、でも緒形拳さんが来ちゃってから会場がざわめいてしまって、これは負けてられないなと思って... (笑)

司会 能村君の挨拶、誌上で再現したいのですが... 能村 内容をいうと、百年という時間を他のものに例えたら、一体どのくらいになるのかなって。カップラーメンを三分間で作れるじゃないですか。カップラーメンを三分間で作って、三分たったらまた作るという作業を延々と繰り返したら、千七百五十二万個。もつと細かくして、わんこそばを三秒で食べられるとすると、百年間わんこそばを食べ続けたら十億五千三百万杯のわんこそばを食べられるって。(笑) 出来ないことじゃないですか、そういう時間を竹早は過ごして来たんだって...  
司会 非常に具体的に百年を表して面白かった。先生方はあの挨拶をどう思われたんですか?  
坂原先生 式典のコンセプトとして、生徒が主役と考えていたんで、堅苦しい式ではなくて楽しく和やかに、古い方から新しい人達までみんなで楽しめるようにしたいと考えました。能村君たちには挨拶だけじゃなくて何かパフォーマンスをしたらって事前にいろいろ



山崎 私は滝沢さんが司会しているときは、「あ、緊張してる、緊張してる」とか他人事のように見てたんですが、祝賀会の会場に来て、あ、そうだが、最後になにか言わなくちゃいけないかったんだ、どうしようと、それを自覚したらすぐどきどきしちゃうって、バッグの中からメモを出して確認したりしてたんですよ。いざ演壇に上がって、誰かと目を合わせたら忘れ、目を合わせたらいけないと思っていたのに、教頭先生と目が合ってしまった。(笑) その隙間に考えていた文章がどこかへ飛んで行って、自分で何を言ったのか...  
司会 いやいやそれは大変でした。ご苦労様でした。  
内田君はピアノをどうだといわれた時、どんな気分でした?

永田先生 まあ私は式典のほうの担当ということでしたが、何よりこの百周年の委員会に所属して感じたことは、生徒会の諸君、在校生も卒業生も非常に優秀なんだなということなんです。その優秀の裏づけになっているのは何かと考えると、その素直さとか積極性、興味を持つことなどにあるのかなと感じたんですけど。というのは、非常に短時間ではありましたが、生徒会諸君に校旗引継ぎのところが締めてもらったし、それからユーモアを交えて非常に具体的な話をしてくれました。重かったかもしれないけど話をしっかりと持って、あの場がしつかりと演出出来たと思うんですけど。それを短時間の練習、短時間の仕上げで、やれるっていうその総合的な能力がすごいなあと思いましたよ。  
山崎 私は滝沢さんが司会しているときは、「あ、緊張してる、緊張してる」とか他人事のように見てたんですが、祝賀会の会場に来て、あ、そうだが、最後になにか言わなくちゃいけないかったんだ、どうしようと、それを自覚したらすぐどきどきしちゃうって、バッグの中からメモを出して確認したりしてたんですよ。いざ演壇に上がって、誰かと目を合わせたら忘れ、目を合わせたらいけないと思っていたのに、教頭先生と目が合ってしまった。(笑) その隙間に考えていた文章がどこかへ飛んで行って、自分で何を言ったのか...  
司会 いやいやそれは大変でした。ご苦労様でした。  
内田君はピアノをどうだといわれた時、どんな気分でした?



中嶋 竹早の伝統は何かといわれても出てこない。長い伝統があるという抽象的なもので、具体的に何だといわれても出てこない。象徴となるようなもの、例えばビマヤヤとか、時計台とか、そういうものであれば、出てくる人は出てくるかも知れないけれど...  
司会 校歌の中にも「輝ける伝統」という言葉が入っていますが、歌うときにそういうところにいるってことを考えますか?  
中嶋 そうですね、校歌自体、歌う機会が多くなかった。ろくに覚えず、こういう仕事をやってはじめて考え始めたという感じ。  
司会 在校生から見ると竹早の伝統というのは何ですか。竹早に伝統というものがあるとは思うんですか?  
能村 一世前の人は、竹早が今こういう形であるという事は、想像してなかったんじゃないですか。今現在僕たちが通っている竹早というのは他の学校より規則もゆるいし、髪の毛の色が茶色じゃいけないとか、髪が耳にかかっちゃいけないとか、そういう規則があるわけではないし。やっぱり伝統を受け継いで来たことによって、先生たちが竹早の生徒を信頼して、今の規則で大丈夫だと思って。今も結構規則守ってな

い人達はいるんですけど、すぐ新しい規則を作るとかしないで見守っているのは、先生の心のなかに竹早の伝統があるからだと思うんですよ。  
司会 竹早の伝統といわれる中でいやな面の伝統ってあるんですか?  
山崎 敢えて言えばプレッシャー... 百年間続いてきて、ある程度、真面目な進学校。竹早に行ってるという、「ああ、頭いいのね」と言われる。卒業生とお会いしても、「あの頃はあんなに強かった」。私、バレー部だったんですが、昔、バレーがすごく強かったのに、私たちの成績が振るわなかったんで、申し訳ないなあと... 悪い面というんじゃないんですけど、マイナスの面を取ってあげれば、プレッシャー。  
滝沢 「出身校どこですか」って聞かれた時に、「都立の竹早高校です」というと、「ああ、あのすごいところよな」というふうに皆さんいつてくださいます。  
内田 偏差値がそのまま学力を意味するとは思えないんですが、とりあえず入学試験、学力試験を経て入ってきている以上、ある程度のコミュニケーションは取れますね。その中でも頭のいいやつはいますが...  
田島 竹早は個性的な人が多かったですね。大学に行くけど、高校は趣味の濃いに刺激を受けました。話していて面白いです。飽きがないというか... 「そうか、こんな考え方もあったか」と思うことばかりでした。面白くて、卒業してもいろんな友人と話しています。  
司会 一番若い稲葉さん。今までの話を聞いていて、あなたの生活でそれがうなずけますか?  
稲葉 私の場合、友達がみんな同じような人たちなので、楽しいなと思えないこともありますが、みんなすごくいい子なんで、学ぶ面があって、いい付き合いをしていると思います。

内田 うちの父に、高校に入るといろんな人間に出会い付き合うようになるから、お前は不器用な人間だから、そんなことしてたら勉強出来ないだろうといわれて、妙に納得してしまったのですが、竹早というところは田島さんがいわれたようにいろんな個性の人がいて、まあ私の学年がそうだったのか、私のクラスがそうだったのか、これまで見たこともないような人が多くて、これは世の中広いなあ、そういう面では楽しんでました。  
司会 式典の前日、準備のために会場に行きましたら、生徒さんが沢山来て先生のご指示で、寒い中でほんとによく働いているのに感動しました。  
坂原先生 あれは、基本的にはクラスから五名お手伝いに出てもらったんですが、私のクラスでは、「やってくれる?」って声をかけたら、わあつと集まったんですね。三年生は自由参加だったんですが、結構参加してくれて、ほんとによくやってくれました。竹早生のよい一面です。  
仕事は大変だったけれど面白かった  
司会 ここにいる皆さんは、それとは別に大変なお仕事をされたわけですが、具体的に話していただけますか?  
中嶋 僕がやってこれと言われたのは、まず百年の年表の整理だったんですよ。でも資料が無い、あるのはこれだけ、ということとでとりあえずやったら、また他の資料がどかどか出てくるわけですね。またやり直し。今度はどこどこにこういう資料があるらしいという話で行ったのは都立公文書館とか、都立中央図書館とか、あとは国立競技場の中にある図書館とか、そういうところ週三回くらい行ってました。同級生の近藤というのは教職員一覽を作ったんですが、二人とも理系の人間なんで、古文とか嫌いな方なのに、見なければならぬのは昔の文章で、まず読めないというのが一番大変で、何だ何だって、いろいろ引っぱり出し

内田 いや一回、僕はお断りした記憶があるんですが、百周年の先生方の中に「お前やれよ」しか言わない先生がいて... (笑)  
司会 若い人がああいうふうにはピアノを弾いて盛り上げてくれたということは非常に卒業生の中で好評だったようですよ。  
竹早の伝統  
司会 百年というのはわれわれ年寄りからいうと伝統とか、オールド卒業生は皆そういう言い方をするんだけれど、皆さんは伝統というものを感ずりますか?  
中嶋 竹早の伝統は何かといわれても出てこない。長い伝統があるという抽象的なもので、具体的に何だといわれても出てこない。象徴となるようなもの、例えばビマヤヤとか、時計台とか、そういうものであれば、出てくる人は出てくるかも知れないけれど...  
司会 校歌の中にも「輝ける伝統」という言葉が入っていますが、歌うときにそういうところにいるってことを考えますか?  
中嶋 そうですね、校歌自体、歌う機会が多くなかった。ろくに覚えず、こういう仕事をやってはじめて考え始めたという感じ。  
司会 在校生から見ると竹早の伝統というのは何ですか。竹早に伝統というものがあるとは思うんですか?  
能村 一世前の人は、竹早が今こういう形であるという事は、想像してなかったんじゃないですか。今現在僕たちが通っている竹早というのは他の学校より規則もゆるいし、髪の毛の色が茶色じゃいけないとか、髪が耳にかかっちゃいけないとか、そういう規則があるわけではないし。やっぱり伝統を受け継いで来たことによって、先生たちが竹早の生徒を信頼して、今の規則で大丈夫だと思って。今も結構規則守ってな



滝沢 私は卒業した春に先生方から「手伝ってみない?」と言われて始めたんですが、最初は、記念誌の原稿がワープロに打つ仕事をすうつとしていたんですが、やっぱり昔の方々の文章ですから、難しい漢字とかいっぱい使ってたんで、それこそ一つ一つ先生に「これってどういう字ですか」と聞いて... それも大変でしたし、あと、いろいろ古い資料を扱うので、丁寧に扱わないと結構ぼろぼろになっちゃったんで、「何か今ピリッとした」なんて、恐る恐る見てた感じなんです。学芸大学に古い資料がいくつもあるっていうんで、全部コピーしに行ったり。あとは、式典の司会に関しては、内多さんとの打ち合わせの時間がほとんどなくて、内多さんが私の大学に来て下さって、短い時間で打ち合わせをしたので、いろいろなことを学べましたし、ほんとに楽し

んで仕事をさせていたでいます。  
山崎 滝沢さんは早く進学先が決まって、春からこういふことをやるんだというのを聞いて、私もやりたいうって先生にお願いして、最初に卒業生の方から借用している資料を整理することをやりました。『婦女新聞』もやりましたが、あれ、ほんとに眠いんです。大学の図書館に『婦女新聞』の冊子化されたのがあって、昼休みとかに読んでたんですが、暗くて程よい湿度気と温度の書庫で古文の教科書をみている気分で見ているうちに、だんだん眠くなつて、気が付いたら進んでいないというのを何度やったか。でも面白かった。  
司会 『婦女新聞』の中に、どういう記事が見つかるわけですか？

中嶋 第二の運動会は見学者が多くて、身動きがとれない程だとか、初代林校長のインタビュー記事や父母の懇話会のことまで載っていました。昔は多かった記事が年代が下るとだんだん減ってきて、寄宿舍の火事の記事があつて、今ならそんなふうに取り上げないと思うけど、結構大きい記事でした。

山崎 全然関係ないけど、当時の広告が面白くて、それが眠気から現実世界に引き戻してくれました。  
司会 新聞って、今の新聞と同じ大きさの？  
山崎 私の見たのは辞書くらいのサイズに縮小してあるものなんです。字が細かくて……



坂原先生 山崎さんと滝沢さんは秘書的役割を完璧に果たしてくれました。仕事の内容は教員が決めて、「こーやって」と渡すとみんなやってくれる。とにかくありとあらゆる仕事をしてもらいました。中嶋君や近藤君には割と決まった仕事があつたけれど、この二人には、「来てくれた！ あ、じゃ、これがあるのよ、あれがあるのよ」と助けてもらいました。写真集のページに十枚くらい写真がありますが、それを全部違うアルバムから一枚ずつ取っ

てくるんです。それを、どこのアルバムからとったどの写真か調べて全部付箋をつけて、印刷に送らなければならぬ、それは彼女たち無しでは出来ない。写真集は、このメンバーがいなければ絶対できなかった大変な作業なんです。百年間のアルバムを恵雅堂に全部持たせて、「ページずつちゃんと作るわけですから、何年のアルバムの何ページのどの写真を、どのくらい大きさを決めて全部指定しなければならぬ。」  
司会 じゃ、レイアウトもなされたわけ？  
坂原先生 レイアウトは先生がしたのを、この写真はどこのアルバムを見ながら、コピーをして貼り付けて行くので分からなくなつちゃう、それを全部整理して……  
司会 じゃ、出来上がったときは嬉しかったでしょう。滝沢 本の形になったときはもう、ちょっと感激でした。  
司会 内田君と田島さんは何を？



内田 私は先ず在学中の夏休みに、先生から「ちよつと手伝って欲しい」といわれて、田島さんと一緒に「竹早新聞」のコピーを取ったのが最初なんです。私は活字を読むことが基本的に大好きなもので、苦勞という苦勞を感じたことが無いので、パソコンの打ち込みで肩がこつたなあというくらいでしょうか。この仕事してると、昔の資料なんかが出てきて、「こんなことがあつたんだね」とか、「竹早新聞に緒形明伸ってあるのは、緒形拳じゃないだろうか」とか、私はひとり盛り上がり、「あ、これは楽しいや」と思って、終わった後、「卒業した後もやらせてもらえないか」と先生に言ったら、「じゃ、受かったら」と……(笑)ま、うまいこと大学にも受かったんで、四月から始めましたが、もう先輩方が仕事を始めたあとだったので、大体のフォーマットは出来ていましたから、そこから下ろしてきた仕事を私が



田島 私はとても小さいことを調べていて、記念誌に載るときはほんの一行なんです。それが事実であるかどうか確かめるために、新聞を端から端まで読む。それは一行にしかならないけれど、大切なことなんだという細田先生の言葉が強く心に残っています。新聞の中にも発見がありまして、本をよく読んでいた当時の学生が亡くなったということ、他の新聞とは別の切り口で書いてあつたのは大きな発見でした。またパソコンで表を作る仕事、寄贈図書表を作る仕事もやりました。あとは滝沢さんと一緒に芸芸大学にコピーを取りに行く仕事、半日延々とコピーを取り続けて膨大な量になつて……

滝沢 みんなで手分けして、何日もかかつて……  
司会 式典、祝賀会、全体の印象は？ 山本君は百年も歴史のある高校に入つて、すぐ百周年の行事があつてどうでした？  
山本 実感がわきませんでした。  
滝沢 私はほんとうに楽しんでいました。司会するときも、本当に嬉しくて、楽しくて、すごくいい経験させていたと思います。  
山崎 私も式典の時は、客席から見せていただいたんですけれど、周りの先輩方が「ああ古い校舎だわ、懐かしいわね」と話しているのを聞いて、卒業生として自分のいた頃のことを懐かしいんだということが分かつたと同時に、映像を見て、百年が新しいものとして捉えられたわけです。  
司会 ほんとですね。「映像でたどる竹早の百年」ですか、とてもよく出来ていて、静止画像が動く映像となつて、あんなにいきいきと目の前に繰り広げられるのびびくりしました。皆様のお力があったことですよが……

坂原先生 ここにいる皆さんは、とにかく在学中から優秀です。(笑)更に生徒会とか、委員会活動を通して、積極的に学校に関わってきた得がい人材なんです。この式典は初めから終りまで、私達が予想した以上に素晴らしいものになりました。これをアレンジした九人の先生達の苦勞は大変なものだったんです。生徒たちも有能で個性的でしたが、先生方も個性的で、それがよい方向で結実した。多分、今後もこれだけの式典が出来るところは少ないと思います。  
司会 その他にも青少年赤十字ですか、あのメンバーの方々も名簿の整理などずいぶん活躍してくれましたね。  
坂原先生 ああ、JRC(青少年赤十字)同好会ね、あのメンバーも頑張ってくれたんですね。今もやってきています。学校においでになったとき、和室の窓のところに手袋人形が飾つてあるのをごらんになったと思います。卒業生の長繩泰子さんの作品です。あれを飾つてくれたのも、トロフィーを展示してくれたのもJRCの人たちです。卒業生の活動を在校生に紹介する仕事を一生懸命やってくれています。  
司会 ほんとうに委員会にとつてありがたい仕事を沢山、ありがとうございます。



永田先生 ここにいらつしやる卒業生の皆さんは早くからいろいろなこと、映像の下ごしらえなど非常に真面目で手を抜かず、傍で拝見していても感心します。こういうスタッフ

フがいたからこそ、ああいう写真集が出来たんだろうし、映像が出来たんだろうし、これから出来る記念誌の基礎資料がしっかりと出来るんじゃないかなあと思うんです。また小森陽一さんと内多勝康さんと、素晴らしい同窓生に職員立場でめぐりあえたといふことは、良い思い出になります。

式典を振り返つて

ワープロに打ち込んだり……苦勞はないですね。(笑)ほんとに楽しかったですね。  
田島 私は在学中にも百周年の仕事をする機会があつたのがきっかけだったかな。卒業してからまだ一年もたたないので、ここで具体的に何をしたらかというところ、先輩達に比べると少し具体的な何をしたらかというところ、図書委員会に所属していたので、図書委員会の中にある歴史などを調べました。  
坂原先生 この二人はボランティアで在学中に「竹早新聞」の整理をしてくださいました。これは貴重な資料で、学校の方の記録に無いことが載っています。その後、資料の整理をする上で大事な作業だったんですね。記事を切り抜いて、項目別に分類して、そこからずいぶん大事な事実が分かつたんです。酸性紙で、茶色くなつていて、触るとバラバラ砕けて駄目になつてしまつたので、コピーを取るのも大変でした。寄贈図書、卒業生が書いた作品を壁紙という形で集めていっているんですが、卒業してからも、それを整理してもらうなど、貴重なスタッフです。

能村 今竹早と言うのは縮める所を縮めてない。成人式とかあつたじゃないですか、騒いだりして。うちの学校も大して変わりが無いんですよ。校長先生が話していても話を聞かない人がいる。やっぱ、昔と変わったところはそこだと思うんですよ。携帯いじつたたりとか、後ろ向いて話してた方が楽しいっていうのは僕だつて分かるんですけど、やっぱ校長先生が話しているってことに聞かなくて、話を聞かなくてもせめて黙つていてというのがマナーってものじゃないですか。そういうのが守られてないのが、今の竹早の悪いところだと思つていいます。先生から見たら、だらしないとかとれないじゃないですか。でもやっぱ同じ視点から僕らは見れる。同じ立場からものを言われ

て、生徒会がリコールなんかされても困るし、百周年の会長がそんなことになつてもいいやだと思つて、変なことしないほうがいいかなって、安全を見越して、ただ話だけついでに感じにしちゃつたんですけど、やっぱり緒形拳さんに全部持つていかれて……(笑)  
司会 話だけの前は何を考えていたんですか？  
能村 文化祭のときに、いつもだと生徒会長は普通に挨拶するだけだったんですよ。それじゃ面白くないので、僕が「懐吾ママのおはロック」ってあるじゃないですか、あれで踊つたんですよ。(笑)たいした挨拶をしないで、それだけで会長の挨拶が終わつて、結構評判は悪くなつたんですよ。堅苦しい話じゃなくて、視覚的に訴えるものが今までに無かつたからよかつた。それ以来僕はお笑い会長みたいなになつたんですよ。それで、それ以来僕はお笑い会長みたいなになつたんですよ。でも周りの面白いことやるんだらうな、というその期待に応えなければならぬなって、変なことやっちゃいました。  
司会 結果は大変好評だったわけですから。  
能村 今の竹早と言うのは縮める所を縮めてない。成人式とかあつたじゃないですか、騒いだりして。うちの学校も大して変わりが無いんですよ。校長先生が話していても話を聞かない人がいる。やっぱ、昔と変わったところはそこだと思うんですよ。携帯いじつたたりとか、後ろ向いて話してた方が楽しいっていうのは僕だつて分かるんですけど、やっぱ校長先生が話しているってことに聞かなくて、話を聞かなくてもせめて黙つていてというのがマナーってものじゃないですか。そういうのが守られてないのが、今の竹早の悪いところだと思つていいます。先生から見たら、だらしないとかとれないじゃないですか。でもやっぱ同じ視点から僕らは見れる。同じ立場からものを言われ

ると先生から言われるのと全然違ふと思つて、僕達  
が言わなければいけないんだ。だからそういうこと  
を百周年の時にも、ちゃんとした形で言いたかつたん  
ですけれど、変な風になつてしまつたのが心残りです。  
稲葉 第二高女の校歌斉唱のとき、私は前の方にいた  
んですけど、前の方に座つてゐる方々が涙ぐんでいた  
ので、どんな気持ちなのかは分からなかつたけど感動  
しました。

司会 第二高女の卒業生も、こういう機会に式典で歌  
えるということで、みんな一生懸命だつたんですよ。  
みんな感激して、参加できたことを喜んでいました。



山本 一番印象的だつたことは、校  
旗のことです。新しい校旗はとても  
鮮やかで輝いていました。僕は校旗  
を持つていて、正面からは見るこ  
とができなかつたのが残念です。校旗  
はとても重く感じましたが、それは単なる「重さ」では  
なく、百年という月日の「重み」なのだと思います。

永田先生 苦労はありましたけれど、とりあえず式典  
が終つてほつとして同時に、まだこれから記念誌  
に向かつて、気を引き締めなければと思つてゐるこ  
とです。いろいろな人間関係の中で百周年に取り組めた  
ということ、その中に自分があるということは、いろいろ  
な個性と出合つて勉強できる。その中でいろいろなタイ  
プのものを吸収していくことが出来たらなと思つていま  
す。とにかく生徒さん、卒業生に感謝しています。



司会 皆さんの話を聞けて、今の竹  
早の人達がどういふ受け止め方をし  
てゐるかを感じました。同窓会は仲  
良しクラブです。その仲間に入つて  
もらつて、次の世代、その次の世代と  
順繰りに送つていってもらつて、い  
つまでも続けていってほしい。今日はどうもありが  
とうございました。

高女25回生(大正14年卒)

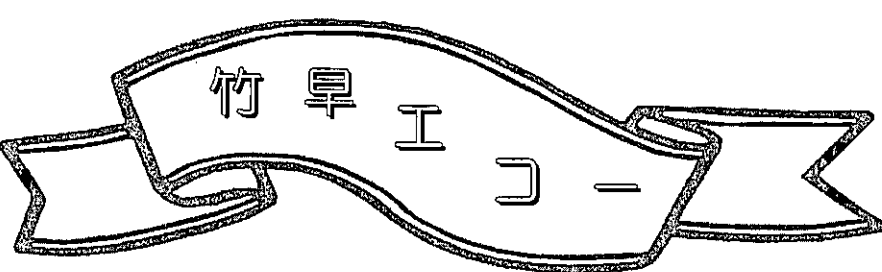
高木 桂子(旧吉田)

二十一世紀を迎え、しみじみ長生きしたと感  
じております。昨年尾崎様、吉本様が亡くなら  
れ、残る九人もどこかが不自由で、もうクラス会  
どころではありません。ここらで昔お世話にな  
つて今は亡き先生を思い出し、皆様と感謝した  
いと思ひます。

まずは英語の今井先生、きびしいけれどとて  
も熱心に教えて下さり、予習復習なしでは授業  
に出られませんでした。一週に二度ぐらいの授  
業でしたのに、五年生になる迄には、マーチャ  
ン・ト・オブ・ベニスや、グレート・ストーン・フェ  
ースも読解できるようにして下さいました。後  
日私が七十を過ぎてロンドンに駐在している息  
子の家に泊つていて、街の名がスラスラ読める  
ので孫に驚かれましたが、しみじみ、おミツ先生  
のありがたみを、感じました。

はじめての国語の先生は渡辺殖先生で、女学  
校に漢文はないが、少しは知つてゐるようにと、  
孟浩然の詩や、矛盾の語源などを教えて下さいま  
したが、あとで思わぬところで役にたちました。

四、五年の国語は橋岡先生で、これはまた新し  
く、授業のあいまに芥川龍之介の小説を読んで  
下さいました。平家物語、徒然草を原文で教えて  
頂き、「：榎木のかつら、さね藁、おとのう人も  
なかりけり：」生徒がうっとりしてその昔を偲  
ぶような、そんな教え方をして下さいました。あ  
の頃、先生は実に熱心に教えて下さり、又生徒も  
一語も聞き落とすまいと一生懸命でした。



22回生(大正11年卒)

向坂 ゆき

腰折の中から竹早の思い出をひろつて  
その三

関 鑑子先生(音楽)  
ひとりづつ唄わせられて「お上手」と

九点たましい師は関鑑子  
十点はなかつたが、あまい点をみないただく

忙しきスケジュールもつ歌手の師は  
ふり袖姿に教壇の日も

(関種子さんは三級下の(旧姓)秋山種子さんが  
先生の令弟と結婚)

小野田 由栄先生(体操)  
深夜ふとファーストキッスはなつかしや

たもとはかまにワルツ舞ひし日  
薙刀と太刀にかけごえりんとして

寒のけい古もありし彼のころ  
鈴木 ノブ先生(割ほう)

自らを「田舎者」と謙虚なる  
師に教わりし料理の基本

小池 キヨ先生(国語)  
いつせいに乙女椿をかざす朝

「椿姫」と師も笑みたまふ  
圓道 祐之先生(習字)

字はすべて左右均衡大切と  
書道教えし師をも忘れず

師の君らにさすなりて年経りぬ  
卒寿越えて来てわが夢かなし

花ふぶきはかまに舞ひしまなびやの  
春ははるけくまほろしのごと

芸大へ行かれ、戦後、オペラで大変活躍されま  
した。モーツァルト、ヴェルディ等々、今の多才  
なソプラノ歌手が出られる迄、よく活躍され、紫  
授褒章を頂かれましたが、平成二年に亡くなら  
れ残念でございました。

高女27回生乙組(昭和2年卒)

菅 多喜子

平成十二年十一月十八日母校の創立百年記念  
式典、祝宴の当日は抜けるような秋空のもと盛  
大に催され、私共27回生は九十才を過ぎ生涯の  
しめくりと思ひまして手島様と二人で出席致  
しました。式典は広いホール一杯の大人数、和や  
かに厳肅にプログラム通りに進行(俳優形勢さ  
んの飛び入りもあり)新旧の校歌の大合唱、ブラ  
スバンドのハーモニイも最高でした。東京会館  
に向かう車中からお堀端の紅葉を眺めとてもよ  
い気持ちでございました。

会長城戸崎様の御挨拶に始まり、山階敬子様  
と御一門の見事な舞囃子「高砂」、若山胤雄社中  
の里神楽「舞獅子」とつづき、御馳走を頂き乍ら  
楽しい刻を過ごしました。実行委員はじめ父母  
の会、殊に殿方の行き届いた御扱いに恐縮しつ  
つも自分らの在校生当時と同じ気持ちで時代を  
越え年齢差を越えて睦み合える、これこそが竹  
早の伝統としみじみ有難く存じ、心から厚く御  
礼申し上げますと共に益々の御活躍御発展を御  
祈り申し上げます。

母校創立百年の式に友と吾  
最年長と歓迎受けぬ  
ようこそと喜び迎ふる後輩の

心あふるるもてなしに酔ふ  
学び・遊び・楽しむすべを教え賜ひし  
師の君の御恩今も忘れず  
寒果て帰る車のハイウェイ  
ゆくてに大き落日の朱色

高女28回生甲組(昭和3年卒)

杉 あさ

二〇〇一年をむかえました。  
私共のクラスの皆様も、九〇才の春をお祝い  
遊ばしましたわけです。明治に生れ、大正、昭和、  
平成と、顧みますと波乱多かつた年月が流れま  
した。  
この上とも世界の推移を見守ってまいりたい  
ものでございます。

格別御元気で御活躍の方々

○正木みち様 一年に二、三回は、もとお住まい  
でした北海道の札幌や小樽までお出かけの由。  
○百瀬ふみ子様 草月流の華道の賞を御受けに  
なりました。また、出穂先生のおむこ様でいらっ  
しやる岩田参露先生の御指導のもとに、美しい  
句集「思ひ出をたどりて」をおまとめになりました。  
尚、粕谷スミ様は昨年末に左記へ御転居遊ば  
しました。

一四五一〇六四 大田区上池台一三三六―三  
三木ちよ様、石田布佐子様の御二方はそれぞれ  
御入院中でございます。私は、腰まがりながら、  
三本足で近くを歩き、指圧治療をうけたり致し  
ております。  
皆様御元気で。

高女29回生(昭和4年卒)

太田 緑

私達甲組は卒業以来、名簿順に回覧ノートを  
回し、近況を書き記して参りました。結婚の報  
告も書かれていました。その貴重なノート、六十  
年も続いています。最近どこかで途絶えて所  
在不明になってしまいました。甲組のお世話を  
して下さる中村綾子様にお尋ねしましたら、現  
在、御健在の方九名、体調を崩されている方七名  
とのこと。

奇しくも健在でいられる私は、思えば高女時  
代バレーボールの選手で鍛えられたせいと思っ  
ています。幾度か試合に出ましたが、最後は明治  
神宮競技会で優勝しました。当時は九人制で、前  
衛に活躍した(旧)半田さんは新潟に住まわれて  
いて、元気に編み物を楽しんでいらつしやる  
由。お電話を受けました。後衛の(旧)田山さん  
は浜松に住まわれ、竹早バレーボール部OG会  
の会報に近況を記されています。あと、お電話で  
お話しするのは中村さんと粕谷さんだけ。私は生  
地の茨城に住み、県内の高校の教員をして退職。  
只今、市の図書館で「古典に親しむ会」の講座で  
「常陸風土記」などに挑んでおります。老化防止  
のためにです。最後になりましたが、母校の繁栄  
と算会の発展をお祈り申し上げます。

高女32回生乙組(昭和7年卒)

諏訪 静子

朱算会の皆様いかがお過ごしでしょうか。二  
十一世紀を迎え私共八十歳代も後半に入つて参

事も忘れ得ず思い出します。そして今一番おも  
う事は、お友達程良いものはないという実感で  
す。その友々も独り独りひたすら生きて、あの戦  
争も体験し、戦争未亡人になられた方もありま  
すし、早く御世界なされた方、御元氣な方、そし  
て級会は途切れなく毎年秋十月には再会をよろ  
こび合っています。昨年は岩崎、小林様幹事で東  
京ステーションホテルでのゴニゴニスでたのし  
く語り合い幸せでした。又同級塩崎佳子さんは  
芸大卒、服部先生の後を継がれ母校に教鞭をと  
られ、級担任・卒業生のクラス・算会のお仕事  
にも画され、平成十年七月御逝去なされました  
ので、心から御哀悼申し上げます。

昨十一月十八日第二竹早百周年式典も本当に  
意義深く百年の歩み、そして今ある私。文京区シ  
ビックホールは卒業生、元氣あふれる在校生が  
一同に参集。純粋に何かが伝わって来て、おごそ  
かな感動感謝でございます。高女33回生14名  
出席。

竹早の誇りでもある俳優緒形拳氏。司会者N  
HKアナウンサー内多勝康氏により即興に突如  
壇上に現われ人間緒形拳さんに感激の一こまも  
ありました。企画実行の完璧さにさすが竹早及  
び算会に絶大の賛辞を捧げずにはいられません。  
最後に御逝去の方々は半数以上となり寂しさの  
限りでございます事を申し添えて。

高女34回生(昭和9年卒)

川田 瑞枝

二十世紀から二十一世紀へと大きな時の節目  
に、わが母校も創立百年を迎えましたこと、洵に

意義深く喜びを感じました。その記念式典、祝賀  
会のため学校側、算会の多くの方々のご努力に  
よつて広い会場もあふれんばかりの盛況にて、  
来賓方のご挨拶あり、余興にも日本古典芸能あ  
り、会に出席させていただいてよかつたと終生  
忘れ得ぬ思いを刻ませていただきました。  
その竹早百年の歴史のうちの五年間を私達も  
夫々連らならせていただいたのだと思ひますと、  
光栄の上もなく、誇らしい気持ちで一杯でござ  
います。  
そんな輝かしい青春を与えられた私達もやが  
て米寿を迎える年頃になってしまいました。心  
して生きなければ。

高女37回生紅組(昭和12年卒)

福田 耀子

昭和十二年に卒業してからはや六十余年がす  
ぎ、自分たちでも信じられない年齢となりました  
が、級の結束はかたく、今年も十月十五日に、  
角田様のお力添えと、幹事の喜多様、高橋様のお  
骨折で、新宿の綱八つの管庵で級会が催され、十  
四人が集まりました。髪も白く姿勢も多少くず  
れ、杖にすがる方も多くなりましたが、気持ちだ

りました。ここ数年クラス会も持たない状態で  
お友達の情報も途絶えがちの折、昨年十一月末  
に磯崎貴代子さんが四月に亡くなられたことを、  
小学校のお友達から耳にされたとお知らせ頂き  
ました。卒業してすぐの算会の幹事を御一緒に  
していましたのに、長い間の御病床の生活でも  
う何年もお話の出来ないままの御訃報でとても  
淋しく思いました。  
又昨年は母校の創立百周年(明治三十三年創  
立)でもありました。十一月十八日快晴の朝都立  
竹早高等学校の創立百周年記念式典が文京区シ  
ビックホールで行われました。  
在校生の吹奏楽の演奏から始まった式典には、  
在校生、高等女学校、高等学校の卒業生が席をう  
ずめて「映像でたどる竹早の百年」で長い歴史と  
伝統を想い起こし、すばらしい式典でした。  
そして午後は祝賀会が東京府立第二高等女学  
校・東京都立竹早高等学校同窓会算会で、東京会  
館九階ロズルームで盛大に開かれました。新  
しい卒業生から九十歳の方迄の広い年齢層でと  
ても楽しい会でした。

高女33回生(昭和8年卒)

大島 幸子

昭和三年春、私達は府立第二高女一年生とし  
て胸を張って校門をくぐりました。一九三三年  
卒業。今八十五才。六十八年という時が惜しみな  
く流れ去りました。甲乙に別れての五年間であ  
りましたが、未だに何か違つた雰囲気を持ち続  
けているのが何とも不思議と思ひつつ、ただ感  
無量の一語につきます。お教え頂いた先生方の

けは夢多きセーラー服時代と変わらず、なつか  
しい想い出話に笑いさざめき、亡くなった友を  
偲び、次から次へと話はつきませんでした。ごち  
そうを楽しみながら、現在ご令息一家と米国に  
お住まいの小栗様(愛別離苦の著者)からのお  
便りと写真を回覧させていただきました。御健在のご  
様子を喜び合いました。福本様がお持ち下さつ  
たカードに皆で寄せ書きを致し、二時半頃「二十  
一世紀」を元氣でむかえましょう、と励まし合つ  
て帰途につきました。来年は小島様と椿原様が  
幹事を引き受けて下さいましたので独りでも多  
くご出席をお待ちいたします。

高女38回生白組(昭和13年卒)

瓜生田 俊子

新しい千年紀の二十一年を迎えました。  
母校は百一歳になり、私達は満か数えで八十  
一歳になりました。三年前の卒業六十周年の紅  
白合同のクラス会のような大きな集まりは無理  
のような気がします。

組が紅であつても白であつても、都合の良い  
時に都合の良い方が集まるようにしては如何で  
しょうか。時々何人かで小さな楽しい交わりを  
しています。何度も、早稲田リーガ・ロイヤルホ  
テルで語り合っていますが、落ち着きますので  
皆様を歓迎します。鹿江(高橋)さんか、私瓜生  
田(泰山)にお知らせ下さい。

さて、私が知っている白組の方の活躍を書きましよう。  
 鹿江さんは、早稲田のオープンカレッジの四年生になり、哲学の勉強です。  
 南美穂女史(吉田)は、現役の画家ですから、半年に一回イタリアにスケッチと取材に出かけられ、若々しくお元気です。  
 宇野(片岡)さんも、描くのが好きで、山岳会、スケッチ絵画展に出品されています。  
 松田(朝夷)さんは、月に二回位園芸教室を開いて、教えていらつしやいます。  
 老齢になっても、想いは高く道を求め、薬として生きて行きますよう。

高女39回生紅組(昭和14年卒)

四谷 桂子

十四竹会の皆様全員お元気で二〇〇一年を迎えられた事と存じます。  
 十二年度のクラス会は四月七日、例年のように東中野の「日本閣」で幹事稲見様、岩間様のおせわにより開催されました。今年も庭園の桜も見頃で会席料理も美味しく頂きました。参加者は十七名(会員二十名)、賑やかで若やいだ気分でした。終りはいつもの様に「春の日の花と輝く」「春の唄」の学



生時代の調べの大合唱で盛上がり、楽しい一日を過ごしました。

さて今年四月四日、会場は同じ日本閣の予定です。稲見様が「次回も元気で会いましょうね」と皆さんの肩を一人づつ揉んで下さいました。

今年私共いよいよ傘寿を迎えますが、会の維持費も大分残っておりますので、何か出席者全員に記念品をと、只今思案中でございます。どうぞ皆様楽しみに御参加下さいませ。

くれぐれも健康に留意され、明るいお顔で目にかかれる様、念じております。

高女39回生白組(昭和14年卒)

大津 雅子

私共のクラスは昭和十四年に卒業しましたので十四竹会(とよたけ会)と致しました。若い頃は折にふれてクラス会をして来ましたが、段々と年を重ねますにつれて年一回のクラス会を楽しみに致す様になりました。しかし八十歳の坂を目前にして、自分自身の健康や御家族の都合等々、出席出来ない方も多くなってまいりました。まだまだ御元気な方も沢山いらつしやいます。この辺でクラス会としての集まりも終りにしようか、という思案も出てまいりました。然しいずれに致しましても長年の間培ってきた友情だけは持ちつづけたいと思っております。

御元氣だと思っておりますが、残念でございます。心から御冥福をお祈り申し上げます。  
 荒川秀子(船津丸様)  
 平成十二年四月二十二日没

河野 かづ子  
 高女41回生(昭和16年卒)

お元氣ですか。昨秋、十一月十八日母校の創立百周年記念祝賀会で頂いて来た「記念誌」を繕いて、昭和十六年と言う年代の後、分厚い紙面が連綿と続いているのを拝見して、今更のように、竹早の歴史の長さ、卒業以来の来し方の年月の多さを痛感致しました。「喜寿」ともなれば当然の事ながら、セーラーの制服を着ていた頃から、戦争、戦後の動乱、経済成長、バブルの崩壊、科学の発達、I・T時代への突入等々、様々の事を経て、今年、二十一世紀まで生き延びた事になりますね。去年は五月八日に目黒の「アルカシヨ」(イタリア料理)でクラス会開催、二十余名出席、美味しく、盛会でした。新しく鬼籍に入られた方の報告もなく、胸を撫で下ろした事でした。それにしても昨今、毎朝、新聞を開くのが恐ろしいような、凶悪な事件ばかりで、老いの心が引き裂かれそうです。経済の復興もさる事ながら、まず心の豊かさ、優しさが望まれますね。私達も、今暫く、次の世の門に辿り着くまで、お互いに交流を保ちながら、一日一日を平和に、丁寧に過ごして行きたいものです。どうぞ、健康に留意して、今年も春頃開かれる予定のクラス会には、ぜひ出席して下さい。御多幸をお祈りしております。

高女42回生(昭和17年卒)

手嶋(木暮)實枝子

昨年末には「金」の一字が書かれましたね。オリンピックのお陰でしょうか。それまでの暗い一字から、やっと光が見えて来たみたいですね。ことしは新世紀を迎えましたし、七十六才の私達も明るく元気に過ごしたいと思えます。

昨年は、例年のように新年会から始まり、五月に鬼怒川方面へ一泊、六月にクラス会、十月に南紀へ二泊三日、という一年間でした。



鬼怒川ライン下りで船頭さんの説明に笑ったり、日光は、六十三年前、第二高女二年生の時の遠足の地で、なつかしく歩き、また秋の南紀では、特に熊野古道を廻って古い歴史に触れて、シンとした気分を味わったりでした。

いつも申しますが、何回もお会い出来て嬉しと思うと同時に、もう何年も、また何十年もお会いしてない方のお顔が次々と浮かびます。

六月のクラス会は、また盛会でありませう。そして東京方面よりずっと遠方にお住まいの方、上京なさる時御一報下さい。集まってお食事でもいたしましょう。

高女43回生(昭和18年卒)

金森 トシエ

新ミレニアム、スタート。心をつなぎ、元氣を出して歩き出しましょう。

昨年六月十四日に催したクラス会「百竹会」の会場は、晴れれば西に富士を望める鎌倉・七里ヶ浜のプリンスホテル。あいにくの曇り日でしたが、二十五人が参加して和気あいあいと九テーブルに別れて会食、近況報告を含めたおしゃべりに楽しいひとときを過ごしました。でも、老々介護の体験を含めた報告もあり、胸に響いたことでした。(世話役は同市内に住む金子日出子、鈴木雅子さんと私の三人)。

十一月十八日、母校の創立百周年の記念式典と祝賀会で、私たちは再び顔を合わせることができました。どちらも大盛会で、記念に頂いた「写真で綴る『竹早の百年』」も素晴らしい、記念事業実行委員会の熱意とご努力に心から感謝申し上げます。

事業の募金には私たち(健在者)の八割をこえる六十五人が、計二百十七口応募。私たちの同級生でもある城戸崎愛・箕会会長のお人柄とご苦勞、それに打たれた私たちの今もなお固い絆のあらわれと申せましよう。終りに、ご他界された倉岡昌代様のご冥福を心からお祈り申し上げます。

高女44回生(昭和19年卒)

浜中 智子

創立百周年おめでとうございます。新しい世紀の黎明とともに、母校竹早も次の百年紀に歩みを進めて、また、新たな歴史を築いてゆかれますことを願っております。

嬉しいおしらせは、平成十二年春の叙勲で、村田照子さんが永年私学振興に尽瘁された功績に対し、勲四等宝冠章をお受けになったこと、同級生一同からは、ささやかなお祝いと花束をお贈りいたしました。

秋のクラス会は十月二十五日、表参道のハナエモリビル5F「ル・パビヨン・ド・パリ」で開催し、出席者は二十四名でした。遠くは倉敷から岸本さんが泊りがけで参加してください、久しぶりの邂逅に賑やかな声ははずみました。会場は場所柄もよく、広さも時間もゆつくりと過ごせて、皆様にもご満足いただけただけではないかと思えます。幹事は澤田・竹内・浜中の三人でさせていただきます。今回は浅野都さん、武田信子さんをお引き受けくださり、再会を約して、散会いたしました。

私たちの年代は、戦争を体験し、世紀の四分の三の年月を生き抜いて来たのですが、今後も元氣で、次の世代に何かを引き継いでゆきたいものと念じております。

突然の訃報でございますが、一月二十九日に池田規子さんが亡くなりました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



高女45回生(昭和20年卒)

青木 美樹子



昨年の級会は、九月三十日(土)に正午から、女子栄養大学の建物の中のお部屋(松柏軒)で開かれました。流石に栄養大学で、本式のおいしいフランス料理に、一同コスト・パフォーマンスがいいわね、と大喜びしました。アメリカから何十年振りでお見えになった飯田早苗リーヴスさんをお迎えして、33名もの同級生が集まりました。最初は暫くぶりにお見えになった数人の方の顔に

「あの方誰方だったかしら」などと近くの席の方とささやきあつていたのが、お名前を聞くと、魔法のように女学生の頃のおもかげが浮かんで来て、「そう云えば、そうだわ。昔の顔が残っているわね。どうして初めは判らなかつたのかしら」と云うようになりまして。楽しいおしゃべりに、あつという間に3時間が過ぎて、折柄降り出した雨の中、来年を約して別れを惜しみながら散会しました。昨年は、斉藤純子様、川島喜美子様が亡くなられました。心から御冥福をお祈り申し上げます。

画されております。その模様は次年にご報告いたします。

高女48回生(昭和23年卒)

前川 富士子

「もろ共に世にぞ捧げん真理と平和」

(古希を迎えて)

明治三十三年、竹早の地に東京府立第二高等女学校が創立されて百年を経た平成十三年十一月十八日百周年記念式典が挙行された。二年も前から学校側から相談を受け、行政の役職をしている私は、都内でも有数を誇る千八百席のシビック・ホールが、文京区で完成する事から、このホールを御推薦し、区長に御紹介の労をとり、完成第一号の祝典として厳粛に、無事終了し肩の荷が下りた。当日式典の心が一つになって響き渡る校歌斉唱は、私共高女48回生を中心としたコーラスが、壇上で澄み渡った美しい歌声で会場の華となった。太平洋戦争末期勤労動員で、占領下の南方へ軍票を送る為、共同印刷工場毎日働いてお国の為を盡した日々。そして終戦の玉音を工場で聞き、涙して、皇居前広場まで徒歩で行き、玉砂利に泣き伏したあの日から五十余年。卒業後クラス会で塩崎先生をお迎えしてコーラスを始めた私達。あの日からコーラスに寄せる想いは青春の心の復活であった。式典の華として是非48回生に歌って欲しいと学校側からの切なる依頼に、二度と遭遇しない百周年の記念すべきあの日に、青春を想いながら歌い上げられた事に、学校側から大きな賛辞を頂戴した。月一回のコーラスの練習、そして最近では和歌

女46回生(昭和20年卒)

「若竹会」 松尾 淑子



西暦二〇〇一年を皆様心新たにお迎えのことと存じます。私たち46回生は毎年欠かさず級会(若竹会)を開いて旧交を温めておりますが、前世紀最後の二〇〇〇年は十一月一日、目黒雅叙園で開催致しました。小林・吉田両先生は都合がおつきにならず残念ながらご出席戴けませんでした。そのせいで元気が、それなりにお元気が、ご様子とのことでした。当日は小雨模様の中ではございまして、三十名の方にお集り戴き、和やかなひと時を過ごすことが出来ました。会場もお料理も皆様にご満足戴けたことを嬉しく思っております。

これからは一日一日を大切に生きて残りの人生を穏やかに楽しく過ごして行けたらと思います。竹早の心は何かにつけて、いつも私たちの胸の中に生きています。又のお目もじを楽しみに皆様のご健康を心からお祈り致しております。級会幹事 藤井、佐藤(松浦)、中村(伊与部)、松尾

の勉強会もあり、あの戦時下、空襲の合間に工場で働きながら勉強の出来ない悲しみを和歌のやり取りで過ごし、軍票を束ねたあの青春の日々から、昭和、平成と生き抜き古希を迎えた事をしみじみ想うこの頃である。育て鍛えて下さった第二高女を卒業した事を一生誇りに思う。

高女49回生・高校2回生(昭和24年卒)

今村 雅子



平成十二年度級会は、六月六日、ミレニアム、母校創立百周年、卒業五十周年と、極めて珍しい三重の慶事の年に当り、前回の好評の「都ホテル東京」で、四十三名の御出席をお迎え、賑やかに開催されました。

卒業五十周年の節目の級会と云う事で、卒業以来初めての方もあり、半世紀という時を感じさせない、昔の面影を留めた姿で、近況を御報告。昼食後奥山幹事発表のゲームに、加藤先生以下全員参加。大爆笑のうちに楽しい一刻を過ごし、最後は、多賀様のタクトで校歌、その他数曲合唱。五十周年の記念品として、さやかなブチケキを出席者全員に配りました。亦、十一月十八日の創立百周年記念式典及び祝賀会には、二十数名が出席、第二高女の先輩方と共に、壇上にて旧校歌を斉唱致しました。

高女47回生(昭和21年・22年卒)

幹事一同

(幹事 柴山・須藤(幸)・五十嵐・濱田) 私たちの過ごした学生生活は戦中・戦後そのものでありました。一緒に入学した友達の半数は疎開のため学び舎を去り、そのまま疎開先の学校を卒業した人あり、終戦後戻り第二高女を卒業した人あり、また、四年生で卒業した人、五年生まで修学して卒業した人と、多様な学生生活を余儀なくさせられました。その様態をつかむ記録も乏しく、竹早高校百周年の行事に併せて、クラスにアンケート調査を実施しましたところ、当時の体験談も交えて貴重な記録が多く寄せられました。整理の上クラス会に配布を予定しています。

ここ二三年前から桜咲く四月上旬にエビス・ピアステーションを借切りで開かれていたクラス会ですが、平成十二年は、私たちが古希を迎える歳に当たり記念になることをと、学校のシンボルであったヒマラヤ杉を模したテレホンカードと紅白のお饅頭を用意しました。出席者は三十九名と近年になく多数の顔が揃い、遠くは広島県三次市から駆けつけて下さった方もあり、昔を偲んだにぎやかな会となりました。七十の坂を越えてなお、日々社会とのかかわりを保ち活躍している方がおられる一方で、体調をくずして臥つておられる方もありと、歳を感じさせられる年代にさしかかったようです。学校の百周年記念式典と古希という人生の区切りと重なり、感慨深い一年でした。

平成十三年のクラス会も四月第一土曜日に計

気分だけは若いつもり私達も、今年は古希を迎えますので、元氣な間に頻りに集いましょうと、今年二月、江の島の催しとして、鎌倉プリンスホテルに一泊、想い出深い一夜を送り、更に秋には、持永様のお世話で由布院への小旅行を予定しております。次回幹事は、鮎沢和代様のグループにお願いしました。在米中の市村先生が暖かくなったら、一時里帰りなさる由。

高校3回生(昭和26年卒)

高瀬 夫佐子



二十世紀最後の筆塚会を、平成十二年十月十七日に、目白椿山荘で開催しました。見晴らしのよい十階での会食と記念撮影は、童心にかえり楽しいひとときでした。出席された三十五名の方の中には、はるばる京都や群馬よりご参加された方、又本当にお久しぶりの方がいらして、お話しに花がさき時間のたつのを忘れる程でした。

この度、母校の創立百周年記念式典に出席し、その輝ける歴史を顧みたり丁度私共の学年は、六・三・三制の学制改革により、六年間も在籍出来たことを本当に幸せたと感じました。新世紀を迎え、ますます健康に留意して、残された日々を少しでも有意義に過ごしたいと思

ます。次回の筆燦会は、今秋の予定です。皆様多数ご参加下さいませお待ちしております。一色紀念子が十月に、加藤温子様が十一月に、ご逝去されましたことをご報告させて頂きます。ここに慎んでご両名様のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

最後に、筆燦会の皆様のご健康とご幸福をお祈り申し上げ、次回お目にかかれるのを楽しみにしております。

高校5回生(昭和28年卒)

八木 茂太郎  
竹野(高山)昌子

開校百年を迎え、祝賀会に高校五回生として出席して、懐かしい思い出が走馬灯のごとく駆け巡りました。出席された多くの同窓生の中で、旧制女学校の方々、女学校から新制高校に切り替えられた高校一回生から四回生の皆さんに続いて、私達五回生は新制中学一回生から竹早高校に入學した節目の時代の生徒だったので、そして会場で新旧校歌を斉唱し、そのどちらも歌うことができた時、校歌の「母ともなりて」を男子生徒は「父ともなりて」と歌うように言われたことを思い出しました。当時は、八割方の生徒は就職希望であった時期で、一流の銀行、商社に多くの生徒が入社できたのも、先輩方の仕事ぶりが評価されたお陰と、今思い出しても伝統の重みを痛感いたします。(以下略、八木)

高校8回生(昭和31年卒)

富塚 稔

第八回生は卒業二十年ほど経った昭和五十年頃から同期会を活発に開催するようになった。最初の頃は会食的なものがあつたが、回を重ねるに従い、又皆の生活にも余裕が出来たので旅行をと言う声が出て来た。昭和六十二年頃から一泊旅行も催すこととなった。最近では一泊旅行を毎年催すのが決まりのようになっていて、ところが、ここまで読まれた方は筆者の記憶力のよさに驚いていることと思います。実はこれには種があります。同期の須藤彰久君が卒業以降の同期会の活動状況を克明に記録していて、それを「竹早高校第8回生同期会の思い出」と云う十四ページの冊子にして同期生に贈ってくれたからです。皆はこれを貴重なものとして愉しく読んでおり、須藤君に感謝しています。

我々には同期会以外に八起会と云う同好会があります。これは第八回生の「八」と「七転八起」の八を取って「八起会」と命名。ゴルフの場合には関東を主体にして札幌にも遠征しています。又「飲み会」も盛んで度々開催しています。この様に皆に偶に会うのではなく、よく会っているでお互いに年を取ったと云う事に気づいていません。いつ迄も若い気で愉しんでいます。今後ともよろしく。

高校9回生(昭和32年卒)

加川 美津子

ヤマンバがすたれたと思つたら、「オッハー」とか、「バラバラ」とか、はやり言葉も変わり、も

き、充実した日々を送ることができました。記念誌発行、記念碑建立とまだ残された仕事もありますが、式典・祝賀会を立派に挙行でき、多くの同窓生や竹早高校の先生方のお陰と感謝し、ほつとしております。又、同期会の折にでも報告させていただきます。(竹野)

高校6回生(昭和29年卒)

本田 康雄

私たち六回生は、「六竹会」と名付けた同期会をほぼ二年おきに開いています。幹事は交代制で、みんなで汗をかくことにより会の親睦がますますふかまわっているという実感があります。会場は、市ヶ谷の私学会館を利用してきました。(今回は今年開催の予定)

一九五四(昭和二十九)年に竹早を卒業してから半世紀近くたち、昨年私たちは六十五歳になり介護保険制度が始まった年に巡り合わせたのですが、事業を営む人、弱者に手を差し伸べる社会的な活動を積極的にに行っている人、趣味を楽しんでいる人など、元気に生きようとしている仲間が多いのに勇気づけられる思いがします。そして、恩師の方々、特に卒業時の学級担任の三瓶、角川、早坂、辻先生がお元気過ぎてござれ、六竹会にご出席頂いたりしているのは本当にうれしいことです。

昨年の母校百周年記念行事では、筆会の役員として小山副会長、西森理事などの御苦勞に感謝したいと思います。

六竹会の名簿(住所録)の希望、住所の変更等は、本田までご連絡ください。

ちろんIT革命も真只中、というわけで我等の世代にとっては世の中の動きについていくのに忙しいことです。

私共今年等は等しく62歳を過ぎ、生きざまはさまざまだと思ひますが、何てつたって人生八十年の時代です。年配者として一括にされたくない、まだまだ捨てたもんじやない、という自負がありますよね、おのおの方!

二年に一度の同期会は、昨年竹早の百周年記念行事と重なったため一年先送りして、今秋予定しています。ホテルでの決まったパターンの同期会もいけれど、思い切つてシティホテル一泊プランとかバスツアーなどは如何でしょうか。情報、御提案お寄せいただくと助かります。

ところで、昨年暮にE組担任の中村先生が他界されました。だんだん近しい先生が亡くなり、寂しい限りです。それにひきかえ織戸先生(旧姓小宮山)は、百周年の会でお目にかかりましたが昔の張りのあるお声もそのまま、お元気です。私共も見習つて人生のゴールデンエイジを愉しみましょう。

高校10回生(昭和33年卒)

犬伏 慶子

我々十回生は昨年は大活躍でした。同窓会幹事年度生として、無事大役を果たし、当日の手拍子とハミングは今も耳に残っております。

十一月の竹早高校百周年祝賀会にも、一番多くの同期生が集まり、又筆会会報の発送時には大勢で力を合わせての作業も楽しく、ゆつくりの団樂

(☎〇三三四八四一四一九八 FAX) また、六竹会で会いましょう。

高校7回生(昭和30年卒)

山廣 俊雄

平成十一年十一月十八日、晩秋の午後、椿山荘「錦水」に於て、総会当番後の初会合が、加藤、松崎両先生のご出席のもと開催されました。出席者は計二十九名とちょっと淋しい数でしたが、会場、料理、雰囲気と三拍子揃つての素晴らしい、両先生を始め出席の皆様大好評でした。以上昨年の会報には手違いで掲載出来ませんでしたので、ここで改めてご報告致します。

今年七賢会開催年に当ります。従来は秋に期日を設定して居りましたが、秋は何かと行事や旅行にと重なることが多いようですので、春にと準備を始めましたが、初夏になり、左記の通り決定しました。詳しくは皆様の許へご通知致します。

記

日時 平成十三年七月八日(日)

十二時より十四時三〇分

場所 帝國ホテル本館 三階 寿の間

今から予定に入れておいて下さい。

最後に訃報です。

平成十二年六月三十日早朝Dルーム担任の大谷京子先生が間質性肺炎で、お亡くなりになりました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。



は出来ませんでした。同期の仲の良い結束は増々強く、会を大いに盛り上げました。又この三回の集まりの後の時間が自然に同期会、クラス会になり、ひとときの茶話会になりました。通常は新年会(昨年は二月に万世で、今年一月新宿で)、節分時の大山詣り、納涼会、一泊旅行、忘年会等その年によりいろいろですが、声を掛け合つて集まっております。どうぞ皆様、クラスの幹事、他同期の方に声を掛け、ご自分から連絡を取って下さい。

私達も還暦を過ぎ、徐々に暇も出来ると思ひます。幸い同期生には面倒見の良い、角掛、関さんがおりますので、足腰の丈夫な内に良い思い出を残せる企画をお願いしたいと思います。最後に心やさしい岩佐守啓さんが昨十一月五日に亡くなり、誠に残念です。心より御冥福をお祈り申し上げます。

高校11回生(昭和34年卒)

橘 サカエ

新世紀だから何なのよ、とは言うものの、その日射しの下に六十歳の身を置けば、よくぞこれまで生かされた、と天地に感謝せずにはいられません。

昨年、総会の案内が届き、数日後、追いかける

ように、同期会の通知が「総会と同日に云々」として届きました。重なる取り込みの一区切りらしい出し、葉書を探して見直したら、返信の締め切り日は疾に過ぎていた。泡を食って宛先の堀江さんに電話を掛ける。「申し訳ありません。とにかく、同期会にだけは出席します」と。

当日「来年は、私達十一回生の当番です。今日の出席者は全員幹事です」ウソの一声も無し、やる気の有無不問のうちに決定した。さらに、夜ならあいてる、と口を滑らせたもので、編集委員にもされてしまった。かくして、多摩の横山から都心へ、回数券で通うはめになりました。

尚、この席で「土の会」の名称が承認されました。名付親は、十一回生の中に隠れもなき三鬼さん、即ち、今の池田明子さんです。「土」ならざるところがみそでしよ。

同期の皆様、土に帰る日まで付き合うこの名に思いのある方は、一言お聴かせ下さい。

高校12回生（昭和35年卒）

河村 恵子

六十年安保闘争で世の中が騒然としている中、竹早を巣立ちそれぞれの道へと進んで四十一年、その間ほとんどの方とお目にかかることなく過ぎました。

来年は我々も六十才となり、筆会総会の幹事当番にあたります。その準備のため一昨年から筆会に関わり、百周年行事を経験して、竹早高校への認識を新たにいたしました。

高校34回生（昭和57年卒）

鹿住 倫世

昨年11月18日に開催された竹早高等学校創立百周年記念祝賀会では、2、3年のときに担任をしていただいた山田徳蔵先生に久しぶりにお目にかかりました。山田先生はすでに教職を離れ、現在はご趣味の囲碁に打ち込んでいらつしやること。お元気そうなお様子に、高校時代の思い出がよみがえりました。

そういえば私たちC組は、卒業以来一度もクラス会を開いていませんでした。あるいは一、二度有志が集まったかもしれませんが、山田先生をお招きしてのクラス会は、確か開催していません。ちょうど今年が卒業から20年になります。そろそろクラス会を開きたいですね。

最近、テレビのコマーシャルなどで、私たちが子供の頃に流行ったアニメーションや歌謡曲、あるいは大学時代に通ったディスコやカフエバー（古いですね）で流れていた曲が使われているのを見聞します。同じ年代の人が作っているのでしょうか。同じクラスだったみんなも、職場で、家庭で、地域でがんばっていることでしょうか。私はいえ、今年、大学卒業以来勤めてきた職場を辞め、大学の教員として再スタートを切る予定です。

竹早を卒業してから20年。もしクラス会を開けられたら、それぞれががんばってきた20年分の思い出を振り返る機会にできればいいなと思っています。昭和57年卒3-Cの皆さん、近況を私宛にEメールでご連絡ください。（メールアドレス・kazumi@asahi-net.email.ne.jp）

昨年、初めて筆会総会に出席し、田邊(石堂E)、田村(福島E)、と大阪からご参加の武井(D)さんのお三方とご一緒いたしました。

また、百周年記念行事には、式典だけ参加された方とは席もバラバラ、懇親の機会もなく、お目にかかれず残念でしたが、午後の祝賀会では学年ごとのテーブルで名札をつけていましたので、大いに盛り上がりました。遠く福岡から来られた徳永(渡辺E)さんをはじめ、斉藤修(E)、高橋紘(D)、萩(E)さんの三人の男性に河村の五人でした。

来年の総会に向け、一堂に会する機会を早急に設け、今後は連絡を密に行きたいと存じます。是非御協力下さい。

連絡先 河村恵子(〇三二五九三二一五七五五) 高校19回生(昭和42年卒)

菅原 哲朗

我々は「一休会」趣旨は、ひとやすみという愛称で、毎年六月頃に同期会に参集し、昭和六十一年以来、今年で継続十六回となる。いわゆる二十三年・四年生まれの「団塊の世代」で、竹早時代は、三年間とも男女別クラス編成、高校三年の時に学校群制度の創設問題で小石川と四十一群となる騒ぎに直面し、大学入學では全国的な「学園紛争」の火中に投げ込まれた。社会では日本の高度経済成長の戦士として働き、バブル期の崩壊とともにリストラの嵐に翻弄されている。

日本ではこれから高齢化社会にはいり、年金制度も当てにならず巨大な一塊りに未来の展望は暗い。しかし、我々は会えば、直ちに十七歳に

高校42回生(平成2年卒)

辻田 智紀

自分が社会人になったのはかれこれ六年も前のことだが、そのころはインターネットなどという言葉すら知らなかった。たまたまコンピュータ関連の会社に就職したので、すぐに電子メールを利用することになるのだが、それはいわゆる社内だけで利用できるものであった。それから約一年後、メールは社外でも使えるようなインターネットに解放され、自分はEメールを利用することになる。

去年のことだったと思うが、クラスの友人と会いEメールを利用してることがわかった。アドレスを教え合うとしばらくしてメールが届いた。それからその友人が知っている他の友人のアドレスを教えてもらったりしてネットの輪が広がり、懐かしい友人とメールで話をするこができる様になった。十年ひと昔というが、六年の間にコミュニケーションの形態もずいぶん変わったものである。

そのうち誰かがホームページを開設し、ネット上で同窓会を開くという日がくるだろう。そうは言っても、やはり直接会って話をしたいと思うのは、毎日コンピュータを相手に仕事をしているからなのだろう。会って酒を飲んだ方がいい。

高校42回生(平成2年卒)

賀持 俊一

私の心象風景 二十一世紀を迎え、竹早を卒業して十一年がたつ。十年ひと昔とは言いが、在校時代の時代背景を思い返すとやはり隔世の感がある。当時は、言

タイムスリップし、次世代に送るメールを考えたつ、同期のネットワークで連帯の絆を強めている。

高校32回生(昭和55年卒)

鈴木 香寿美

ある日突然、原稿を依頼されてしまいました。本来、同期会の活動について書くらしいのですが、私は竹早卒業後二十余年、ほとんど関西在住のため同期会もクラス会も、あるのかわからないのかさっぱりわかりません。何で？ そんな私に？ きつと、毎年まじめに会費を払っているからですね。そんなのあり？ というわけで、私の近況報告だけでOKということなので――。

大学卒業後、あつという間に結婚→専業主婦の道をたどりはや十五年ほど。気がつけば今年四十のおばさんですが、中味はほんとかわってません。長女は中学一年、次女は小学二年になります。ごはんをつくり、そうじ、せんたく、買い物、毎年めぐり来るPTA役員という地味いな生活、これにいずれは老親介護も加わることでしょう。次女の入園を機に始めた水泳(これがまたおばさんばかり)が趣味といえるくらいなものです。

できることなら、今、竹早の授業を生徒としてきてみたい。角川先生の地理、桑原先生の世界史、大竹先生の英語、忘れちゃいけない濱道先生、お元気でしょうか。もつと勉強したらよかったですと反省しております。

同期会の活動についてくわしい方、いろいろ教えて下さいませ。よろしく。

高校45回生(平成5年卒)

渡辺 篤史

うまでもなくバブル経済の最盛期であったし、消費税の導入や元号が昭和から平成へ変わるなど、今から考えると正に時代の転換期であった。そこで、自らを顧みると、この十年の間に、浪人生を経て、大学を卒業し、人並みに就職をし、さらに転職も経験した。気が付くと、自分の人生の節目を通過していったのである。そして身の回りでは、結婚、出産などの話もよく聞くようになった。

竹早にいた頃、授業中ふと校舎の窓から新宿の高層ビルなどを眺め、ほんやりと将来のことなどを想っていたのだが、いつしか自分も「そんな年頃」になってしまっていた。

竹早の新校舎の眺望は旧校舎とはすっかり変わってしまったであろう。今の竹早生を少し気の毒に思いつつ、文京シビックセンターの展望台などで、今では「心象風景」となっている新宿あたりや眼下の新校舎を眺めていると心が落ち着くのである。しかし、そこには十年後、あるいはもつと先の将来どんな自分になっているのか、いまだに確たるものが見えない自分がある。

お仲間募集

同期の皆様

私達の年代も卒業してからはや八年、そろそろ結婚話が聞こえてくるように思われますが、皆様のいかがお過ごしでしょうか。

さて、何が、どう間違ったのか、私は現在、同窓会組織である筆会の理事に就いています。と



はい、実質は会社の仕事に追われ、理事諸先輩の寛大なるご理解のもと、定例理事会にできる限り顔を出す程度のことしかできていないのですが…。

しかし、この理事会には同世代の方が一人もいらっしゃいません。

そこでお仲間募集!! というところで、一緒に活動して下さる方はいらっしゃいませんか?

全同窓生を対象にしたイベントをしたい方、あるいは「今の竹早に一言もの申す!!」という方、興味のある方は是非ご連絡下さい。

活躍の場と数多くの出会いが、あなたをお待ちしております。

沼尻 恭一

高校48回生(平成8年卒)

私たちも卒業してから六年が経ちましたが、みなさんお元気でしょうか? 学生の人や社会人など、立場は様々だと思いますが、みなさんそれぞれの方面で活躍されていることと、思います。

信される。」というものです。もし参加したいという方がいらっしゃいましたら、私、沼尻宛に電子メールを送って下さい。詳細につきましては、折り返しメールでお伝えします。(takehay8@hotmail.com)

高校50回生(平成10年卒)

中嶋 康雄

同期生の皆さん、お元気になっていますか。早いもので卒業してもう三年が過ぎようとしています。運良く大学に入ることができた私は就職を目前にして頭を抱えている毎日です。卒業してからの短い間にもいろいろな出来事がありました。多くの人と出会い楽しい時間を過ごしたことも自分自身のことでも悩んだことも。交通事故に遭ったり、友人と飲み過ぎて二日酔いで苦しんだことも。三年前の私には考えられないようなことを多く経験しました。

そのような時、たまに高校時代の友人達と連絡を取り合いたいこともありませんか? そこで、平成八年度卒業生のメーリングリストを作りたいと思うのですが、どうでしょうか? メーリングリストとは「インターネットメールを利用して、参加者全員に同じメールを配信するシステム。たとえば参加者のうちのひとりがメーリングリスト宛にメールを出すと、参加者全員にそのメールが配信され、だれかがそのメールに返事を出すと、そのメールも参加者全員に配

信される。」というものです。もし参加したいという方がいらっしゃいましたら、私、沼尻宛に電子メールを送って下さい。詳細につきましては、折り返しメールでお伝えします。(takehay8@hotmail.com)

い行事にして頂き、ありがとうございました。

高校51回生(平成11年卒)

山崎 節子

滝沢 知子

竹早高校を卒業してから約2年になろうとしています。一人一人がそれぞれの道を歩み、日々前進しようとしていて、胸に息づくのは竹早で過ごした日々だと思えて来るのです。

例えば、昨年の11月に行われた百周年記念式典。お手伝いという形でこの素敵な式に関わらせて頂きましたが、この式を通じて、懐かしい顔たちに再会する事ができました。「よかったね。いい式典だったよ。」と駆け寄って来てくれたのは、ホッとさせてくれるあの頃のクラスメイト。先輩や後輩の姿も目に写ります。そして共に百周年の事業に携わって来た仲間との絆も更に強く掛け替えない宝物となりました。この百周年という時を迎え、年代の差を超えた大きな輪の様なものを得た気がします。

そして、二千年に二十才を迎え、二十一世紀に二十一才となる私達は今年、成人式を迎えました。各地で集いが催されましたが、それもまた「やあ元気だった?」「久しぶり!」の聲が飛び交うきっかけとなりました。

それぞれの目標は異なっていますが、実は心の近くには竹早で得た大切な絆があるのだと実感しています。これからもその事をいつも胸に大きく翼を広げて行きたいと思っています。

卒業生・教職員の動向

○叙勲・受賞(平成12年度)

村田 照子(高女44回生) 50年に及ぶ教育界における活動に対して「勲四等宝冠章」を受賞  
緒形 拳(明伸・高校9回生) 長年の演劇界における活動に対して「紫綬褒章」を受賞



○人事異動(平成11年度)

〔転入〕  
増田 昌子(国語・杉並高校)  
松本 幸博(数学・新規採用)  
石塚 秀雄(嘱託員・上野高校)  
渡辺 芳郎(事務長・赤羽商業高校)  
飯島 永典(経理係長・九段高校)  
宮坂 由紀子(主事・新規採用)

○人事異動(平成12年度)

〔転入〕  
磯山 進(校長・明正高校)  
安田 健(教頭・大島高校)  
鎌守 知行(保健体育・牛込商業高校)  
高橋 富江(嘱託員・墨田養護学校)  
吉見 友孝(嘱託員・王子養護学校)

〔転出〕  
藤野 功二(国語・退職)  
坂本 正彦(数学・退職)  
河村 廣通(嘱託員・退職)  
津田 龍一(嘱託員・退職)  
牧野 茂(嘱託員・退職)  
石井 啓三郎(事務長・足立新田高校)  
飯田 知子(主任・小石川高校)  
巻田 裕子(主事・豊島高校)

〔転出〕  
中込 勝英(校長・退職)  
矢島 邦男(教頭・足立高校)  
俵田 浩一(保健体育・赤羽商業高校)  
小林 祥男(嘱託員・退職)  
伊藤 恵允(嘱託員・向丘高校)  
小林 澄子(主事・富士高校)

昨年十一月十八日、文京区シビックホールにて東京都立竹早高等学校の創立百周年記念式典が盛大に行われた。昨年より纂委会報の編集委員となった私は、午前九時頃、早めに会場に入り、カメラの配置等会場の確認をした後、自席に座った。程なくして、音楽部の高校生が舞台上上がり、楽器の音合わせを始めた。その様子を見ていた私は、あと四十数年前の我が青春、私の高校時代の数々の出来事を懐かしく思い出していた。その中でも、文化祭や卒業式の諸々の出来事は、年を重ね、還暦を過ぎた今でも色あせることなく、はっきりと覚えている。

思い起こせば、昭和三十三年三月十日、卒業式終了後、千葉良範君の音頭取りで、前もって約束していた約十名は、校舎屋上の時計塔下に集まり、「これからの人生、お互いに頑張ろう」とワインで乾杯したことがあった。みんなこれから始まる新しい旅立ちに胸を躍らせ、決意を新たにし、池袋方面と上野方面に分かれて散会したのである。懐かしい思い出である。しばらくすると、式典が始まった。二十分位過ぎた頃、その卒業式の日、に屋上で乾杯し別れた仲間の一人である緒形明伸君(俳優緒形拳)が来場した。彼が会報編集委員会が設置したカメラの前の席に着席したので、私も隣に座った。私は事前に緒形君が式典に出席するだろうとの情報を得ていたが、それが、現実になったことが嬉しかった。

ここで緒形君の思い出を振り返ることとする。

私は竹早高校に入学してすぐ、野球部に入学した。その時、一緒に入学したのは、中学時代に都大会に出場して互いに顔見知りだった豊田勝君と堀繁夫君(故人)、それに、中島正蔵君であった。入学して間もない私達四



記念式典に寄せて  
諸石 一彦(高校9回生)

名は、四月末からの憲法大会（現在の春季大会）にレギュラー出場し、大いにはりきっていた。

それからまもなく、五月中旬頃のある日、緒形君から「野球部に入りたい。」という申し出があった。そこで、五月末の土曜日に（当時は完全五日制）駒込の六義園のグラウンドに来るよう彼に指示した。



緒形拳 氏

当日、グラウンドで彼とキャッチボールをしたが、長身でボールが速かったのを覚えている。フリーバッティングでも、彼がマウンドから投げるボールはやはり速く、それを見ていた我々一年生は、早く「形やん」のボールを打つてみたいと気がはやった。そして、競って、瑠君、私、豊田君の順で彼のボールを打ったのである。しかし、彼のボールは確かに速かったが、私が打った時の感触では、ボールが軽く、良く飛んだのを覚えている。結局、彼は三人に随分と打たれ、交代することとなった。

次の週の月曜日に、学校で彼に会い「肩の調子はどうか。」と聞いてみると、「諸石、野球はやめにするよ。」と言う。その訳を聞くと、「三人にポンポン打たれ、自信を失くした。」とのこと。私は、「練習不足で打たれただけだ。」と野球部に残るように説得したが、彼の意志は堅く、退部するのである。

彼は、その後、演劇部に入り、生来の才能が開化し、活躍することとなった。

爾来、四十数年後の今日、役者として立派に成功した彼に、今回の式典で再会したことを機会に、高校時代の思い出について幾つかの質問を試みた。

最初の質問。「六義園で野球部の練習をしたことを覚えているか。」彼は、「細かい事は忘れたが、六義園で野球部の練習に参加して、一日で退部したのは、よく覚えている。」と語った。

二番目の質問。「演劇部に入部した最初の文化祭は、当然上級生が主役で君は端役の盲人の役だったが、杖を着いて歩く格好が、実に自然で正面の扉に消えていく後ろ姿は、今でも印象深く心に残っているよ。でも、その芝居の題名が思い出せない。」彼は大変嬉しそうに「こりと笑い」、「そんな昔のことを本当によく覚えていてくれたな。その芝居は「蚕豆」の煮えるまで」って言うんだよ。」と答えてくれた。そして、「あの劇のことを覚えている人は誰もいないと思ったのに、本当に嬉しいよ。」と両手で、握手を求めてきた。

彼の竹早高校での活躍で忘れられない名演技は、彼が三年生の時、送別会で上演された「王将」の坂田三吉役。（資料では文化祭と書かれているのは誤り。）本来なら、彼は三年生で出演できないのであるが、当時、元気のなかつた彼を元氣付けたいと、演劇部の仲間や顧問の國廣先生の特別の図らいで実現したものである。

最後に、当時私達がお世話になった学年の諸先生方に深く感謝の念を申し上げて、筆を置きたい。

我々の学年は、男子百名、女子二百名に増員された最初の学年であった。男子は個性豊かで活発な生徒が多く、しばしば、ハメをはずした行動をとる者がいた。そんな時に、担任の諸先生方が、生徒を思い、勇気ある行動で対応して下さったこと、慈愛に満ちた先生方の温かい心に深く感銘を覚えるものである。

従って、先生方の名譽回復のために緒形君の式典での発言の一部、事実と異なる内容があったことを指摘しておかなければならない。この文の最初の方の卒業式のエピソードが示すように、彼は卒業式に出席している。立派に卒業証書を受領しているのは、間違いのない事実である。

お知らせ

高女25回生藤末幸様（大正14年生）本年二月七日逝去のお知らせに添えて、ご長女陽子様より算会に二万円のご寄付をいただきました。ご冥福をお祈りするとともに、厚く御礼申し上げます。

総会報告

―二〇〇〇年算会総会を終えて―

高橋 多助（高校10回生）

平成12年6月26日（日）  
東条インペリアルパレス

今回は百周年記念と言うことで、当番幹事である高校10回生を中心に入念な準備が行われてきた。一五〇名近い参加者のもと、皇居の緑が窓いっぱいに見える会場で開始された。

総会は定刻11時に関氏（高校10回生）の開会挨拶の後、会長挨拶に続き議事審議が行われた。

理事會報告、11年度事業報告および会計報告ならびに監査報告が行われ、疑義なく審議が済

まされた。

つづいて、12年度事業計画案および予算案について提案が行われ、疑義無く承認された。さらに、会報委員長角掛氏（高校10回生）より会報発行についての報告が行われた。

最後に、学校側百周年記念式典実行委員会から、式典準備の状況、記念誌発行についての報告がなされ、総会を無事終了した。

この後、場所を別部屋に移して天野氏（高校10回生）の司会で懇親会が開始された。前半、写真家テラウチマサト氏による（癒しの写真スライドショー）と題して屋久島で撮影された写真が瞑想的な音楽を背景に、上映された。このあと来賓挨拶として磯山校長、そのあと乾杯でしばらくの時間の懇親と団欒に入った。この間にジャ

ズボーカルの演奏があり、演奏の途中では、演奏するロイド・コール・ウイリアム氏に誘われ、参加者も声を張りあげたりして、楽しいひとときを過ごした。

最後に有志が前に出、全員で府立第二高女、竹早高校校歌を斉唱し、閉会の挨拶で散会した。

終了後、各学年別に各々、舞台をバックに写真を写して、なごやかな空気がしばらく続いていた。この会報がみなさまのお手元に届けられる頃には、次の総会の準備が高校11回生を中心に進められております。一年間を通して担当幹事の卒年生以外にも多くの方々のご協力を得ていることに感謝いたします。



2000年度算会総会決算報告書

《総会・懇親会費》

収入		
会費(7000×143名)	1,001,000円	
祝い金(5口)	90,000円	
算会より補助金	294,731円	
計	1,385,731円	
支出		
会場費・懇親宴会費	1,194,781円	
(立看板、吊看板、演壇花、スクリーン等を含む)		
アトラクション・スライドショー	30,000円	
アトラクション・ジャズボーカル	84,000円	
土産代	10,000円	
印刷代	61,950円	
(プログラム、出席者名簿、式次第ピラ等)		
校歌ピアノテープ吹き込み御礼	5,000円	
計	1,385,731円	

《会報発送経費》

収入		
準備金(預り金)	100,000円	
返金	-3,146円	
計	96,854円	
支出		
弁当代	78,000円	
飲み物代・文房具代	7,449円	
返信ハガキ代	10,460円	
送金手数料	945円	
計	96,854円	

以上の通り報告致します。

2000年6月25日  
高校10回生幹事 関文隆

一 理事会報告

篤会副会長 小山 紀久彌(高校6回生)

平成十二年度は、次のとおり理事会を開催した。

○四月二十七日 出席二十五名 委任 五名

▽議題一 百周年記念モニュメントについて

制作依頼予定の小堤良一、伊藤麻沙人両氏から製作のプロジェクト、モニュメントの意義の説明があり、費用計画について検討の結果予算状況に鑑み、発注を延期することとした。

▽議題二 平成十一年度決算報告及び平成十二年度 予算案について

小山豊子副会長から報告及び提案があり、若干の質疑ののち了承、決定。

▽議題三 平成十二年度総会費用について

担当の関文隆理事から費用補助の要請があり、三十万円の補助を決定。

▽その他

一、百周年祝賀式典に祝い金十万円を贈ることを決定。

二、小山豊子副会長から高木雅子、俵田浩一両理事の退任申し出が報告され、了承した。

○七月十三日 出席二十七名 委任 六名

▽議題一 百周年記念事業等について

一、竹野昌子実行委員から式典、祝賀会の役割分担及び事業予算について説明があった。

二、式典招待客のご祝儀は事業費収入に繰込むことを決定。

三、記念碑の費用について一千万円とするか一千五百万円とするかについて採決し、十五対十四(棄権四)で原案どおり一千万円と決定した。

○九月二十二日 出席二十八名

▽議題一 平成十二年度総会報告について

関文隆理事から報告が行われた。

▽議題二 百周年実行委員会報告について

坂原富美代委員から報告があった。

一、現在、当日の式典出席予定者は二百八十名、祝賀会出席予定者は二百七十二名であり、今後在校生、保護者にも案内する予定であること。

二、記念誌の部数を二千部から三千部へ増刷すること。

三、併せて器具レンタル、作業補助の費用等、事務局としての支出の要請があり、募金から四百万円の支出を決定。

▽議題三 百周年記念式典、祝賀会の役割分担について

小山豊子副会長から提案があり、原案どおり決定した。

▽議題四 会報十一号の報告について

高木里子理事から報告があり、その結果、式典終了後に名簿作成の見直しを行うこと、十一号についてはB5判で四十八頁とすることを決定した。

○十一月六日 出席二十五名 委任 四名

▽議題一 百周年実行委員長報告について

一、学校の大家先生から式典等の準備状況、出席者名簿作成の進捗状況について説明があった。

二、坂原富美代委員からその他の補足説明があった。

三、小山豊子副会長から祝賀会準備の進捗状況につき報告があった。

四、向井正昭理事から祝賀会会場バスの一台中車が提案され、了承した。

五、本間宏理事から会場席割り等の説明があった。

六、角掛隆理事から記録について説明があった。

七、坂原富美代委員から旧校歌の披露について卒業生の協力要請があり、前川富子、内山隆子両理事が同級生に依頼することとした。

▽議題二 百周年モニュメントについて

本間理事から費用総額一千三十四万五千六百三十円の見

積案が示され、都の許可があり次第、十三年春を目標に制作に取り掛かりたいと提案があり、了承された。また同時に要請されたサポート要員については次回理事会までに検討することとした。

○十一月四日 出席二十三名

▽議題一 百周年記念行事について

坂原富美代、竹野昌子両理事から式典、祝賀会について報告があった。又祝賀会計について次の報告があり、了承した。

収入 四百七十万円

支出 八百三十七万円

なお収支差額三百六十七万円については、募金から支出することとした。

○一月十八日 出席二十五名

▽議題一 百周年行事記録について

百周年記念式典、祝賀会の記録ビデオ(未編集)を視聴した。

▽議題二 その他

一、磯山校長から協力に感謝するとのあいさつがあった。

二、三輪先生(実行委員長)ほか実行委員の先生方からそれぞれ行事についての感想が述べられた。

三、十三年度総会担当の池田明子理事から計画の概要説明があった。

四、細田裕美理事から卒業祝、入学祝について例年どおり実施したいと提案され、決定した。

平成11年度会計報告

自・平成11年4月1日 至・平成12年3月31日

●収入	
前年度より繰越金	15,332,956
入会金	2,040,000
新入会員242名	
年会費	2,067,000
総会費	874,000
名簿代金	8,780
特別活動収入金	896,500
観劇会・新年会	
広告収入	715,000
雑収入	—
受取利息	31,515
合計	21,965,751

●支出	
総会開催関係費	1,265,342
贈呈記念費	511,464
新入会員名簿制作費	77,485
特別活動関係費	928,064
会報発行費	3,028,206
百周年記念事業繰入金	500,000
会議費	226,423
通信費	11,300
旅費交通費	52,880
事務用消耗品費	1,843
慶弔交際費	146,778
雑費	144,320
事務委託費	50,000
予備費	—
次年度繰越金	15,021,646
合計	21,965,751

一 学校の現状

安田 健(竹早高等学校教頭)

竹早高等学校は、明治三十三年、東京府立第二高等女学校として創立され、昭和二十五年現在の東京都立竹早高等学校と改称し、男女共学校となりました。

今年度の最大な行事は、十一月十八日(土)に挙行された百周年記念行事でした。

当日は、午前中に文京シビックホールで百周年記念式典を、午後には東京会館九階ロビーで祝賀会を挙行いたしました。

この行事は、教職員、父母と教師の会、同窓会、同窓会が手を携えて、多くの方の参加を頂き、また、来賓の方には、お褒めの言葉もいただきました。平成十二年度の主な行事を次に書きます。

- 一学期は
- 四月十日 始業式
- 四月十一日 入学式
- 四月十九・二十日 健康診断
- 五月二日 校外学習
- (一学年・長瀬、二学年・横浜、三学年・鎌倉)
- 五月十六日 体育祭
- 五月二十六日～三十一日 中間考査
- 五月三十一日 避難訓練
- 六月三日 P.T.A総会
- 六月五日～十七日 教育実習
- 七月四日～七日 期末考査
- 七月十日～十二日 球技大会
- 七月十八日 歌舞伎教室
- 七月十九日 終業式

で、一学期が終了しました。夏季休業期間中にはクラブ合宿が行われました。

また、約五百名の中学生・保護者が学校見学にきました。

二学期は

- 九月一日 始業式・防災講和
- 九月十五日 竹の子祭
- 九月十六日・十七日 竹早祭
- 十月二十三～二十六日 中間考査
- 十月二十八日 オープンデー
- 今年度より、学校説明会をオープンデーと改称し、九百名程の中学生・保護者が来校しました。
- 十一月七日 開校記念日
- 十一月十一日には都立高校合同説明会が、都庁で行われ、約百三十名程の中学生・保護者が竹早高校のブースを訪れました。
- 十一月十八日 百周年記念行事
- 十二月七日～十二日 期末考査
- 十二月二十五日 終業式
- 三学期は
- 一月九日 始業式

推薦入学試験

帰国学級入学試験

学力検査

国際理解教育講演会

学年末考査

卒業証書授与式

修学旅行(一学年沖繩修了式)

で、平成十二年度が終わります。また、竹早高校は、この十三年度より百一年目が始まります。新たな百年へのスタートです。さらに、学校は平成十四年度より、週休二日となり、それに伴い教育過程の変更が行われます。本校においても、今度の教育過程が今後の竹早高校を決定づける重要なものとして、教育過程検討委員会を中心に検討を進めています。

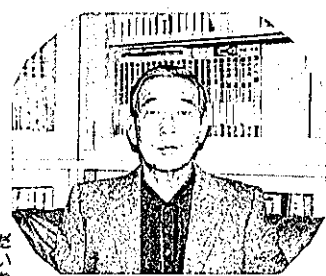
以上のように、本校の現状と今後の予定について書きました。今後とも、同窓会の皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。また、文化祭などの機会には、母校へお立ち寄りください。

尚、今年の文化祭は九月十五・十六日です。

進路状況

合格者数一覧(2000年度卒業生) 合格者数は延人数(3月16日集計)

- 国公立大学
  - 東京学芸(2)、筑波(1)、電気通信(1)、東京水産(2)、東京農工(1)、鹿児島(1)、東京都立(1)
- 私立大学
  - 青山学院(9)、学習院(13)、北里(2)、共立女子(1)、国立音楽(1)、慶応義塾(2)、工学院(3)、國学院(1)、駒澤(3)、芝浦工(2)、昭和女子(1)、女子栄養(1)、成蹊(7)、成城(3)、専修(5)、創価(4)、大正(1)、拓殖(1)、大東文化(2)、中央(10)、津田塾(4)、同志社(1)、東海(3)、東京家政(4)、東京家政学院(1)、東京経済(3)、東京国際(1)、東京工芸(1)、東京造形(2)、東京電機(5)、東京農業(3)、東京理科(3)、東邦(6)、東洋(24)、獨協(3)、日本(22)、日本社会事業(1)、日本獣医畜産(1)、日本女子(2)、文京女子(1)、文教(6)、法政(13)、武蔵(3)、星薬科(1)、武蔵工(1)、武蔵野女子(2)、武蔵野美術(1)、明海(1)、明治(10)、明治学院(6)、明星(1)、立教(4)、早稲田(6)、その他(24)
- 私立短大
  - 青山学院女子(2)、共立女子(2)、東京家政・淑徳・順天堂医療・十文字学園・昭和女子・創価女子・立教女子、各1名
- 専門・専修学校
  - 日本工学院(2)、文化服装学院(2)、上野法律・織田デザイン・堀田理容美容・国際理容美容・社会医療技術学院・社会保険中央看護・女子医大付属看護・大東医学技術・東京スクールオブミュージック・東京スポーツクリエイション・都立豊島看護・都立広尾看護・日大付属看護・デジタルアーツ東京・東邦学園音楽・早稲田速記医療福祉、各1名



青木 茂 (国語・昭和31年～昭和43年)

甘やかしは大禁物

教育も嫉(行儀作法)も、ある程度の強制がなければ成立しない。強制を忌避して、子供の好きなことばかりやらせれば、それは教育と嫉の放棄になる。安易な性善説に陥って、親が嫉を放棄し、教師が教育を怠って、「子供と友達になる」ことに専念し、子供に媚びて野放図に育て、過度なまでのゆとりや個性・自由の尊重が、結果として、自己主張はしても他者への配慮や自己責任と義務とを認識できない子供、著しく自己抑制力・忍耐の低下した子供を生んだのである。人間形成には、規範や規律が必要だという、これまでの教育観を徹底的に打ち砕いたことが教育を崩壊させたのである。自己抑制力・忍耐心は、苦しい勉強を我慢強く続けることによって育つものである。勉強が好きで子供など滅多にいないから、自己抑制力・忍耐心は、勉強を強制することでは育てられない。ところが「ゆとり教育」を謳歌する今の教育は、本来の狙いとは逆に、子供に勉強しなくてもよいという誤解を与え、学習時間の減少をもたらした。目を覆うばかりの学力

低下の惨状を招いた。二月早々、都内市立中学の入学試験が始まり、本格的受験シリーズがスタートしたという新聞記事を見た。都内A区の名門私立K中学には、定員三百名に対して、八百九十一名の小学生が挑み、しかも、試験会場に向かう通路わきには、塾関係者がびっしりと並び、一人一人に「頑張れよ」と激励していた、という。この記事を見て、私は思わずかつての竹早高校時代を思い起こして、何とも言えぬ感懐に浸った。新聞写真の少年・少女たちの容貌は、知的に引き締まって、清新凛冽としていた。

親の期待を担って、向学心に燃えるこんな生徒を教えている塾の先生は、まことに教師冥利に尽きることだろう。また、今の日本が陥っている知の衰退、知の破壊という前代未聞の現象を前にして、将来を憂える心ある親たちが、秘かに公教育を見限り、真摯な塾の教育に頼り、伝統と校則を遵守している私立名門校に我が子を託したいと願うのも当然のことだろうと思われた。

私が竹早高校のお世話になったのは、昭和三十一年(一九五六)から昭和四十三年(一九六八)までの十二年間である。二十七歳から三十八歳までの青壮年期であった。受験戦争たけなわの時代で、十二回生・十六回生・十九回生の担任であった。今、座右の三冊の卒業記念アルバムを開くと、忘れ得ぬ人、思い出の人、懐かしい人達が、紙面からむくむくと立ち上がって復活・再生してくる。感慨は、まさに無量である。端正な女子の制服姿、素朴・清潔な男子の制服姿の魅力に、思わずジンとしてしまう。誰しもが「名門校の教

養と品格」「伝統校の誇りと威厳」を身につけている。——この人達も、今は、功成り名を挙げて、確固たる社会的地位を占め、あるいは、良妻賢母として立派な家庭の大黒柱となっていて、ともに一児、二児の親となつてはいるわけだが、我が子の教育と嫉は、どのようにされたのであろうか。きつとその脳裏には、竹早高校の伝統精神や校則にのっとりて克己精励した青春時代の思い出があつて、子供を甘やかさず、厳しく優しく勉強を強いられてきたのであろうかと想像している。

学校に於ても家庭に於ても、先生から生徒に、親方から弟子に、親から子に、祖父母から孫に、確かに伝授し得るものは、「知識と学術技術」だけである。教育に於て可能なものは、理想的な人間像を造るといふような大それたものではなくて、知識と技術の肉声による伝達のみである。嫉(行儀作法)は、両者の絆の間に、自然に定着していくものである。

人生目標(志望)なくして勉強は成り立たず、勉強の克己精励なくして教育は成り立たない。「ゆとり」などというものは、老人の趣味にまかせて、将来ある子供には、あの懐かしい竹早高校時代のように、どしどし勉強を強制するのがよい。それが子供自身のためである。流行におもねり媚びた甘やかしは、子供にとつても、福祉老人にとつても大禁物である。



三柳 将明 (体育・昭和53年～平成元年)

竹早の思い出(一)

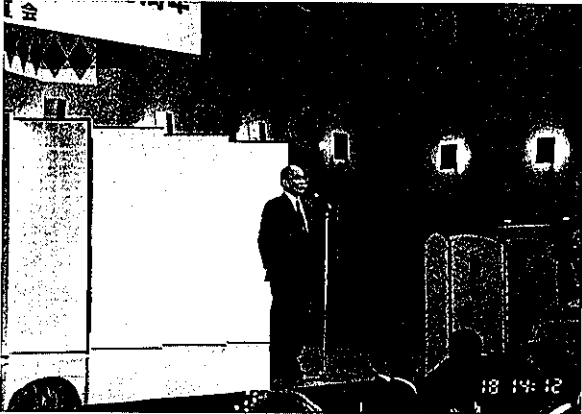
私が竹早高校に勤めさせていただいた期間は、昭和五十三年(一九七八年)四月～平成元年(一九八九年)三月までの十一年間です。竹早に赴任してビックリしたのは、運動場の狭さでした。それまで普通の校庭をもった学校に勤務してきた体育教師にとつては、もの凄く戸惑いを感じました。テニスコートがたったの三面しかとれない運動場の学校など想像だにすることがなかったからです。しかも学校要覧には、他校と変わらない数のクラブの存在が記載されており、疑いもせずに、普通の学校を勝手に想像して赴任した自分の愚かさを嘆いたものでした。サッカーを専門にする者にとつては致命的に思えたからです。しかし、後日、このことを嘆いていたのは私だけではないことに気付いたのです。当時、学校群制度で小石川高校と竹早高校は入学する生徒を振り分けており、ほとんどの男子生徒は小石川高校への入学を希望していたように思います。とにかく、入学後しばらくは男子生徒は元気がないのです。私は、このような生徒をいかにして元気を出させるか、そして「竹早に来て良かった」と実感してもらえるかについて体育教師なりに考えました。それまでも竹早高校には学

校行事が沢山ありましたが、これらの行事を一層活発にすること、そして、全校生徒が一堂に会して共通体験出来る「体育祭」を創ることに取り組んでみようと思つたのです。なにしろ、50メートルもないグラウンドでしか活動できない環境では生徒の欲求は満たされないと感じたからです。様々な難関はありましたが、多くの生徒諸君の熱意と多くの先生方の賛同を得て、赴任して三年目に教育大学跡地を借用して「体育祭」を開くことができました。さすがに竹早生だと実感したのもこの時でした。私共の考えを理解するのが早く、それを着実に計画、実行でき、感動できる生徒集団だったので。初めての「体育祭」は竹早高校全校生徒・先生方が一丸になった最初の記念日だと私は今も思っています。以来、今日まで「体育祭」は継続されていると聞いております。竹早祭・スキー教室・クラブ合宿・修学旅行などの行事にもそれぞれ思い出は一杯あります。しかし、私にとつて忘れられないことがあります。それは、私が顧問をしていたサッカー部が小石川高校をはじめ破つた日のことです。バレー部・バスケット部などの室内で活動できるクラブは当時も一流の技量を誇っていましたが、狭いグラウンドを活動の場にしているサッカー部は赴任当時、遊戯的なクラブでした。試合に負けてもニコニコできる生徒に愕然たる思いでした。その中に一人、小石川には負けたくないといふ私に訴えた生徒がいました。「やろうぜ」「やります」この時から打倒小石川、目指して練習態度を彼らは意識的に変えたのです。私も引きずられま

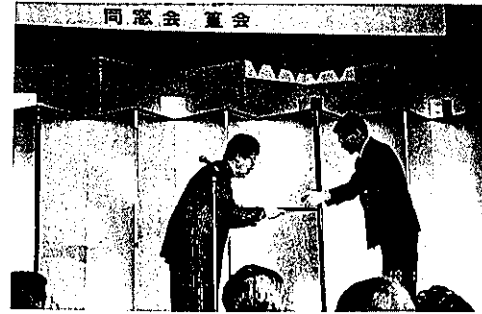
した。毎日、毎日着実に成果は上がりましたが、公式戦ではあと一試合が勝てず、都大会に出場が果たせない時期が続きました。が、とうとうその時が来たのです。小石川高校と対戦が決まつた時の彼らの一人ひとりの顔は意外にも落ち着いて見えました。場所は小石川グラウンド。技量的には負けないだけの自信はありましたが、相手はサッカーを校技とでも思っている伝統あるクラブ、先手をとつて慌てさせることに集中させ、幸いにも先取点を取ることができました。結果は1-0でしたが、このときの彼らの涙は忘れることができません。「先生、竹早に来てよかった」この言葉が聞きたかつたのです。この時の彼らは今、三十才半ばでしょうが、私が竹早を去る半年前から校舎改築の準備が始まり、その後六年間にわたつて体育科の先生方も生徒も大変な思いをされたと同つております。このことを思うとき、私の竹早時代は恵まれていたのだと思わずにはいられません。良い生徒、素晴らしい先生方に恵まれ幸せな時でした。この紙上をお借りして改めて感謝いたします。



古屋和雄氏(NHKアナウンサー)の司会で祝賀会がスタート



筒井元校長の挨拶

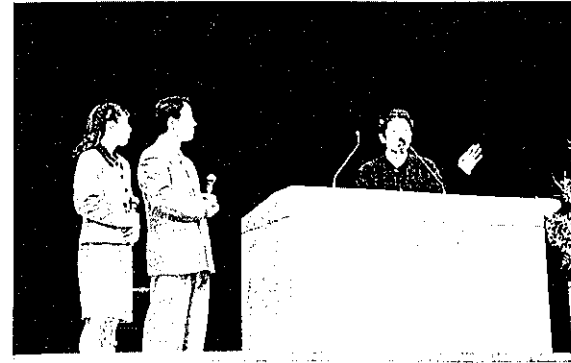


城戸崎会長より磯山校長に記念碑の目録授与



鳩山邦夫氏の挨拶

小森陽一氏(24回生)の講演

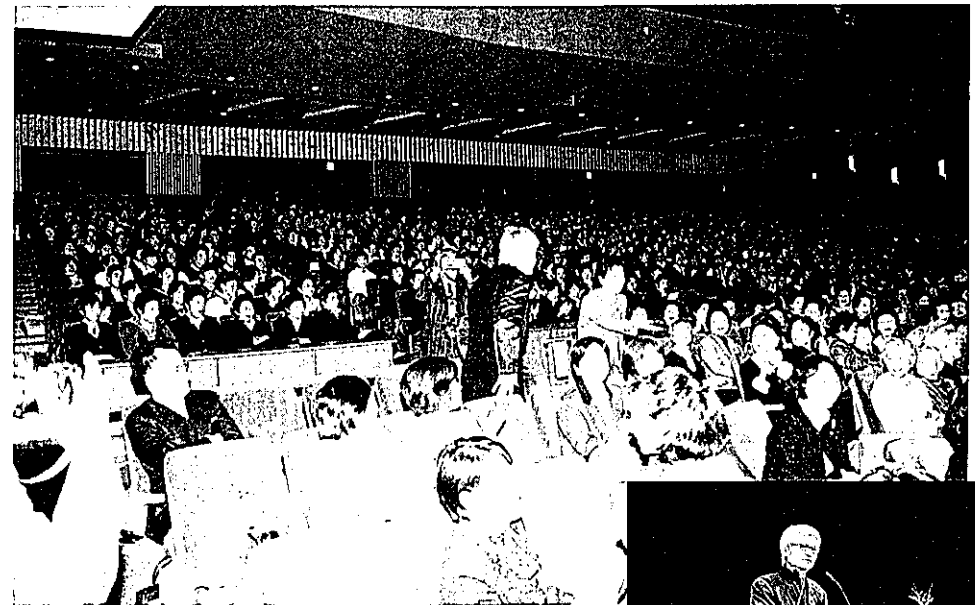


司会:内田勝康(34回生)・滝沢知子(51回生)

オープニング



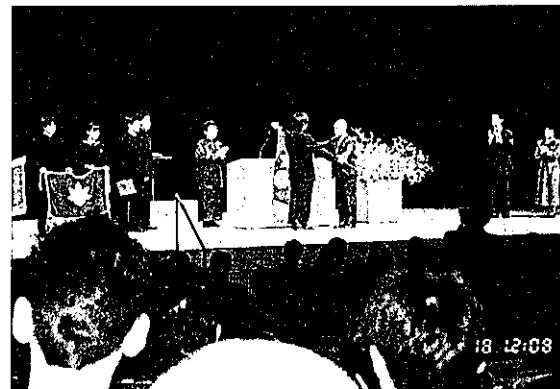
(在校生音楽部メンバーによる演奏)



オープニング! 緒形拳氏来場



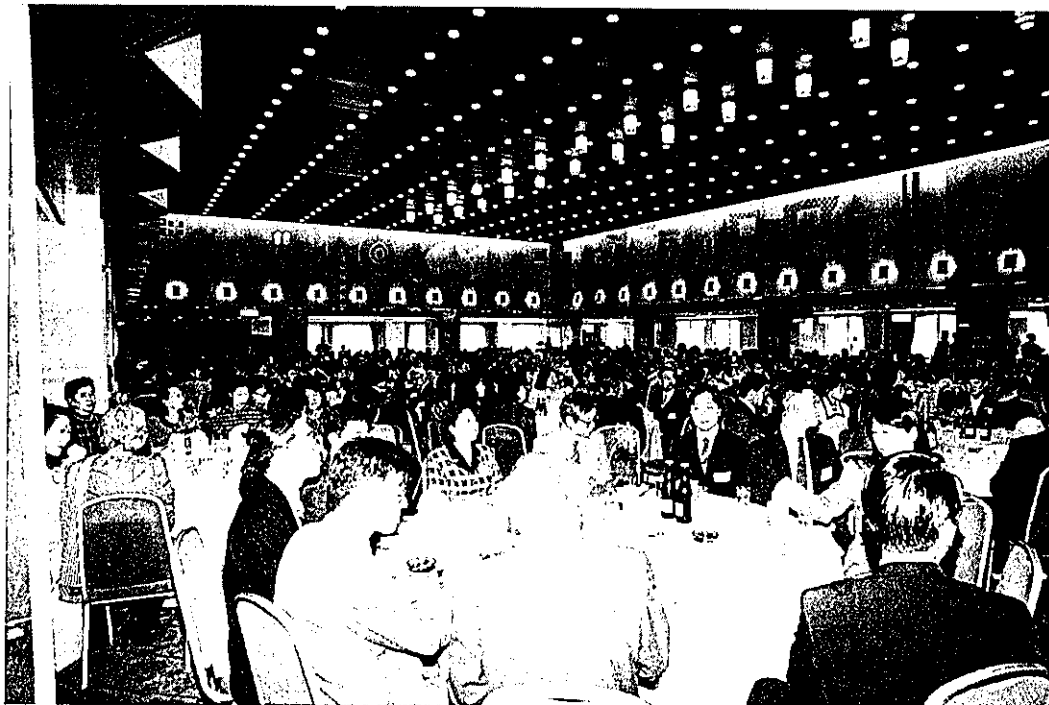
思い出を話す緒形拳氏



新校旗の授与



校歌斉唱



祝賀会会場風景

## 編集後記

今号は百周年報告号です、ご協力有難うございました。在校生と卒業生は盛大な記念式典及び祝賀会が出来た事に感激したと思いません。式典でとくに盛り上がったのは、緒形拳さん(高校九回生)が飛び入りで壇上上がった時、功なり名をとげた先輩が母校の後輩学生を激励するのは見えて楽しいものです、学生諸君は良き先輩を目標にぜひ頑張ってもらい母校の名誉と伝統に花を添えて下さい。特に映像で見る百年は、すばらしいの一言に尽きると思います。制作に携わったスタッフの先生方や学生諸君のセンスに拍手を贈ります。午後の祝賀会は山階敬子さん(高女四十三回)の観世流能楽に感激！その後は華やかな祝賀会同窓会で終了。役員係の方々御苦労さまでした。

会報は現在高校三回生を頭に下は二十二回生・二十三名のメンバーで頑張っております。今後共、ご協力よろしくお願い申し上げます

会報編集委員長 角掛 隆  
(高校十回生)

## 年会費ご協力のお願い

「12号会報へのご協力ありがとうございました」  
会報は皆様の会費と広告の協力により成り立っております。今年も同封の振込み用紙で会費のご協力よろしくお願い申し上げます。

竹早高校同窓会の発展とお祈りします

## 同窓会 篁 会

会長 城戸崎 愛(料理研究家)

高女43回生

竹早高校同窓会の発展とお祈りします

## 関西 篁 会

会長 河合道子

高校3回生



山階敬子氏の舞囃子「高砂」



今もハツラツとして素敵な高女の皆様方！  
“みいつかしこき〜” 唱ってます。



舞囃子に見入る出席者たち



都立竹早高校卒の皆様、まだまだお若いです！  
“ひまらや杉に新芽萌えて〜”



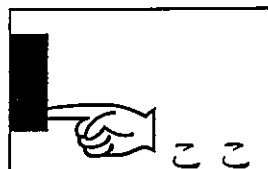
ぞくぞくと出席者が入場

- ◎西池袋囲碁サロン 03-3985-3280
- ◎サンフラミンゴ 03-3982-9061
- ◎純喫茶フラミンゴ 03-3986-5638
- ◎割烹 鞍 03-3986-3926

北白樺高原・姫平

- ◎ホテル・フラミンゴ 02686-9-2011

●交番  
東武百貨店  
北口



池袋駅

←至新宿

至大塚→

## 西池袋ビルディング株式会社

代表取締役 恩田裕城 (昭和33年卒・高校10回生)

豊島区西池袋1-28-1 TEL 03-3983-4555 FAX 03-3986-3927

## 平河総合法律事務所

所長 稲見友之

(昭和33年卒・高校10回生)

東京都千代田区平河町1-6-15 USビル7F

TEL03-3261-1411 FAX03-3263-2698

## 西出法律事務所

弁護士 西出紀彦(昭和36年卒)

事務所 〒530-0047 大阪市北区西天満3-6-22 大阪屋ビル3階

TEL(06)6365-9813 FAX(06)6365-5967

竹早高校同窓会の発展をお祈りします

## 湘南 篁会

会長 松本紀子

高女41回生

御入会・お問い合わせ 高女48回生 源中松子 ☎0468-71-0299

石州流伊佐派

半々庵八世

## 半月庵 磯野宗琢

(磯野うめ子・昭和13年卒)

〒113-0021 文京区本駒込6-11-22 電話03(3946)4011

.....魚の好きな人の店.....座敷、テーブル.....

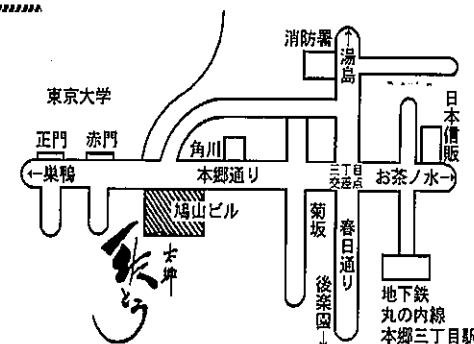
## 本郷 佐とう

昼:11時半~1時45分 夜:5時~10時(休日:日曜・祝日)

☎113-0033 東京都文京区本郷5丁目23番地12号

鳩山ビル地1階

電話 03(3816)3224



専門体育教師による水泳・体育指導  
個性を伸ばし、のびのびと明るい、元気な子を育てる

## 日進まこと幼稚園

〒331-0044 大宮市日進2-1048(丸広百貨店南隣り) ☎048-663-0938

## 第二まこと幼稚園

〒331-0044 大宮市日進3-193(日進北小東隣り) ☎048-664-1785

FAX. 048-665-0946

野尻国彦(昭和41年卒・高校18回)

# 七賢会

昭和30年卒業同期会  
〈高校7回生〉

# 八起会

昭和31年卒業同期会  
〈高校8回生〉

# 九篁会

昭和32年卒業同期会  
〈高校9回生〉

さん さん かい  
三三会

昭和33年卒業同期会  
〈高校10回生〉

# 荻原静夫法律事務所

弁護士 荻原静夫

(旧姓伊藤) 荻原禎子 (昭和34年卒・高校11回)

事務所 〒102-0093 東京都千代田区平河町1-6-11 エクシール平河町204号室  
TEL.(03)3261-6986 FAX.(03)3261-6986

モスバーガー・チェーン・メンバー

有限会社 ビーアンドエイチ

代表取締役 加藤桂子 (高校7回)

〒561-0893 豊中市宝山町19-26

☎06-6853-6255 FAX06-6853-6256

モスバーガー営業店

- 新金岡店 堺市蔵前町
- 京橋店 大阪市都島区
- 今福店 大阪市城東区
- 南森町店 大阪市北区

クスリのご相談は

# 株式会社フヂヤ薬局

薬剤師 小川英康 (昭和40年卒)

東京都墨田区墨田5-39-4 TEL(03)3611-6519

竹早を卒業して半世紀

会員の皆様のご健勝を祈ります

# 篁燦会

昭和26年卒業同期会  
〈高校3回生〉



<p><b>高根産科婦人科医院</b> 母体保護法指定医 医師 高根 健 (旧姓香川) 高根 美子 (昭和34年卒・高校11回生) 〒261-0011 千葉県千葉市美浜区真砂4-4-15 TEL.043-278-3131</p>	<p><b>篠田歯科医院</b> インプラント専門 川越市木野目1652 TEL.0492-35-2102  chiseis@saitama-med.ac.jp 篠田 祥子 (旧姓見目) 昭和34年卒・高校11回生</p>	<p> <b>HANDFAST</b> package design studio 代表取締役 <b>遠藤 紀雄</b> 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-19-8 原宿ファミリー301 TEL 03-3405-6369 FAX 03-3405-6501 昭和34年卒 (高校11回) E-mail handfast@zb3.so-net.ne.jp</p>
<p><b>中西美彌子</b> (昭和32年卒・高校9回生) 〒300-0845 茨城県土浦市乙戸南3-14-17 ☎0298-41-4934</p>	<p><b>友愛婦人会</b> 会長 鳩山安子 昭和15年卒 (高女40回) 中央区明石町8-1 聖ルカレジデンス1306</p>	<p><b>(有)紅や弁当店</b> JR上野駅入谷口1分 代表 田中祐三郎 (昭和32年卒・9回生) 東京都台東区東上野4-10-7 ☎03-3841-0063</p>
<p>コピーのことならおまかせ下さい 原寸・縮小・拡大 営業時間 9:00~18:00 休日:土曜、日曜、祭日 <b>サンヨー工業齏</b> 代表取締役 吉岡忠俊 昭和36年卒(高校13回) 〒173-0001 板橋区本町32-12-102 ☎03-3964-6090 FAX 03-3964-0939</p>	<p>社会福祉法人 <b>勝楽堂病院</b> TEL.03-3881-0137 東京都足立区千住柳町5-1 院長 芦田 光則 (昭和34年 高校11回卒)</p>	<p>金属プレス金型・プレス加工 <b>株式会社 今西製作所</b> 代表取締役 今西敏男 (昭和34年卒・高校11回生) 〒114-0001 東京都北区東十条6-11-14 TEL.03-3902-2484 FAX.03-3902-2573</p>
<p><b>中国貿易専門商社</b> <b>誠和貿易株式会社</b> 代表取締役 守岡 敬祐 昭和30年卒(高校7回) 本社 〒190-0023 東京都立川市柴崎町3-5-21 井上ビル6F ☎0425-27-7552 FAX.0425-27-7805 上海連絡事務所 中国・上海市仙霞路470虹城公寓18号201号 ☎(021)62087494 FAX.(021)62752245 携帯:13901728761</p>	<p><b>有限会社 芳孝土木</b> 代表取締役 河合芳孝 (昭和34年卒・高校11回生) ☎03-3964-8869 〒173-0005 板橋区仲宿27-8</p>	
<p><b>Handi Craft Shop &amp; Mini Gallery</b> OPEN 12:00-19:00 <b>1万円(1日)から</b> ご利用いただけます! クラフトマン・職人や作家の手法をご紹介しますとともに、皆様の作品発表の場として、ご利用いただけるミニギャラリーです。 ■お問合せは 03-3988-3921、神戸まで</p>	<p>PUB <b>カトレア</b> 黒瀬 靖子 昭和34年卒・高校11回生 〒171-0014 豊島区池袋2-18-1 田村第一ビル2F TEL.03-3980-0761 FAX.03-3812-8663</p>	
<p><b>KGALLERY</b> 神戸デザインスタジオ 〒170-0013 東京都豊島区東池袋4-23-6 ドミー池袋101 Tel.03-3988-3921 Fax.03-3988-9038 地下鉄有楽町線東池袋駅2分 サンシャインシティ60そば</p>		

# 土の会

## 昭和34年卒業同期会 (高校11回生)

2001年の「篡会総会」は私たちが担当します

# 燦合会

## 昭和35年卒業同期会 (高校12回生)

2002年の「篡会総会」は私たちが担当します

## プロダクトデザインの広がり

—比較デザイン文化論— Studies on Comparative Culture of Design

デザインを志す人へ  
環境問題に社会問題、明日はどっちだ?  
その答えは意外と身近に。  
ヒトの生活や文化に寄り添って語られた  
カタくてヤフラかいデザインのモノがたり。

**磯貝恵三 + 筑波大学生産デザイン 編**  
A5判並製296頁・定価(本体2,500円+税)  
工業調査会・販売部 FAX03(3817)4749 TEL03(3817)4738

磯貝恵三 (昭和30年卒 高校7回)  
崇城大学 教授 (旧名・熊本工業大学)  
芸術学部デザイン学科 生活環境コース  
860-0082 熊本市池田4-22-1  
TEL096-326-3111 FAX096-328-8540  
E-mail: isogai@art.sojo-u.ac.jp

**小杉教子(旧姓 新栄)**  
(昭和34年卒・高校11回)  
〒114-0016 北区上中里1-33-7  
☎03-3940-6738  
経理代行及損保代理店

**對崎俊一法律事務所**  
弁護士 對崎俊一  
昭和40年卒(高校17回)  
〒105-0001  
港区虎の門1-1-11 マスダビル5F  
TEL.03-3506-7941 FAX.03-3506-7943

あなたのパソコン・ライフのお手伝い


ホームページ作成ご相談承ります

## すずめ工房

代表 鈴木賞一 (昭和34年卒・高校11回)  
114-0023 東京都北区滝野川7-48-14  
TEL 03-5907-6252 FAX 03-3916-0124

E-Mail studio@suzume-net.com  
URL http://suzume-net.com

インターネット通信販売  
E-Mail shop@suzume-net.com  
URL http://suzume-net.com/tsumugi



<p>酸洗鋼板・熱延鋼板 シャーリング・スリット・ レベラーカット 加工販売</p> <p>貴金属シール・サイン</p> <p><b>泰誠産業株式会社</b></p> <p>代表取締役 内山光政</p> <p>(昭和33年卒・高校10回生)</p> <p>〒110-0005 東京都台東区上野3-20-7 行徳ビル4F</p> <p>TEL.03-3836-1068 FAX.03-3832-8072</p>	 <p>奄美クルマエビ(株)</p> <p>代表取締役 上野國衛</p> <p>(昭和33年卒・高校10回生)</p> <p>〒894-0506 鹿児島県大島郡笠利町手花部353番地</p> <p>TEL 0997-63-2406 FAX 0997-63-1351</p>	<p>バイオ理化学実験器械 販売</p> <p><b>日京テクノス株式会社</b></p> <p>代表取締役 新井 堅司</p> <p>昭和30年卒(高校7回)</p> <p>〒113-0033 東京都文京区本郷2-17-8</p> <p>TEL.03-3814-2066 FAX.03-3814-2060</p>
<p>医療法人</p> <p><b>武井整形外科</b></p> <p>院長 武井秀丸</p> <p>(昭和32年卒・高校9回生)</p> <p>〒338-0001 与野市上落合8-1-12 (赤十字病院前)</p> <p>TEL.048-855-0663</p>	<p>手袋人形作家 子供の文化研究所</p> <p>講師</p> <p><b>長縄泰子</b></p> <p>旧姓長谷川 昭和25年卒(高校2回生)</p> <p>☎171-0021 豊島区西池袋4-3-5</p> <p>TEL 03-3982-6847</p>	<p>特殊刃物・スクレパー 薄刃、厚刃、丸刃、超硬 設計 製作</p> <p><b>ダイワ刃物工業株式会社</b></p> <p>代表取締役 関 文隆</p> <p>昭和33年卒(高校10回)</p> <p>〒175-0083 東京都板橋区徳丸1-9-8</p> <p>TEL03-3550-3355 FAX03-3550-3519</p>

朝日新聞 平成13年2月26日夕刊1頁下段に掲載された1文です。加唐興三郎=間瀬興三郎先生


●新聞・雑誌広告代理店(宣伝・企画・立案)

●デザイン・編集・印刷・出版

●日本陰陽暦日対照表出版発売元

(上下巻セット 31000円+消費税)

〒113-0022 東京都文京区千駄木3-22-11-623  
☎03-3821-0210 FAX.03-3823-0064




**株式会社ニッポ一**

角掛 隆(旧姓・長岡) 角掛昌枝(旧姓・三部)

(昭和33年卒・高校10回生)

日本の散歩道①



**陰暦と陽暦**

加賀乙彦(作)

日本では明治五年の改暦までは陰暦が用いられていた。四十七歳の野中入道、元禄十五年十二月十四日(即ち、西暦一七〇八年一月三十日)である。東京で十二月半ばに雪が降るの知らせが、一月末の出来事だとすれば納骨の準備。いよいよ臘のうえに雪が降り始めるため、私が座右に置いていたのが加唐興三郎編「日本陰陽暦日対照表」(上下二巻、一九九二年、株式会社ニッポ一発行)の大冊である。これを筆書と書いておくがどうか知らないが、歴史的な事象と月日の意味を示し、キリシタの文化と陰暦の深淵を際立たせている。

キリシタの時代の日本人は陰暦を用いていたが、宣教師や主君はキリシタの西洋暦の陰暦を用いていた。それによって臘日を知り、数々の行事を定めていたのである。

「キリシタ」が用いられたのは一五八二年十月だが、日本に系統していた宣教師たちが、これを用い始めたのは少し遅れて、一六〇〇年(即ち)と推測されている。キリシタの大名、高山右近を主人公とした小説を書いていた私は、

陰暦と陽暦と季節感の差に興味を持った。

家康が伴天連進放文を出したのが慶長十八年十二月二十三日、これが金沢に伝わったのは翌十九年正月である。まさか、その年の正月に正月の松の内の慶事のきなかには伝えられたのだ。しかし、陰暦を使っていた宣教師が右近に比べて、一六二二年のクリスマスを探り、きつた二三年の新年を待たせ、ほんの二息をついた二月初旬であった。きつた右近が金沢に追われたのは、きつたも陰暦の多い二月であると考え、深淵の困難な進行の場面が想像された。

右近が追放船でタイに上陸したのは、慶長十九年十二月二十一日だが、これは一六二四年十二月十一日、クリスマスの直前である。この日付が、マニラにおける盛大なクリスマスのミサに右近が参列するところの場面が描かれた。

陰暦と陽暦との隔大な対照表を「日対照表」に入れるのは無理であるから、加唐の「対照表」はこれからは私の座右に置かれるであろう。

- 会報委員会
- 委員長=角掛 隆(高校10回生)
- 委員=高木萬里子(高校3回生)
- 向井 正昭(高校4回生)
- 山廣 俊雄(高校7回生)
- 室田 容子(高校8回生)
- 加川美津子(高校9回生)
- 駒見 宗信(高校9回生)
- 松本 泰子(高校9回生)
- 諸石 一彦(高校9回生)
- 内山 光政(高校10回生)
- 関 文隆(高校10回生)
- 高橋 多助(高校10回生)
- 池田 明子(高校11回生)
- 甲斐ひろみ(高校11回生)
- 黒瀬 忠生(高校11回生)
- 桑原 芳子(高校11回生)
- 小杉 義信(高校11回生)
- 橋 サカエ(高校11回生)
- 堀江 禮子(高校11回生)
- 本橋 淳子(高校11回生)
- 河村 恵子(高校12回生)
- 萩 隆之介(高校12回生)
- 渡辺 信博(高校22回生)

発行日=2001年4月25日

発行=笹会：東京府立第二高等女学校同窓会  
東京都立竹早高等学校同窓会  
東京都文京区小石川4-2-1  
東京都立竹早高等学校内

編集=笹会会報編集委員会

印刷=株式会社ニッポ一  
東京都文京区千駄木3-22-11  
☎03-3821-0210 FAX. 03-3823-0064